

II 結果の概要（受けた医療に対する満足度）

1 がんについて、医師により説明を受け、初めて治療を開始したときのこと

（問5、問6関係）

（1）医師から受けた診療に関する説明の状況（問5）

初めて治療を開始したときに、診療に関することについて医師からの説明に関する問のいずれかに「はい」と回答した患者は97.0%(722件)となっている。（表1）

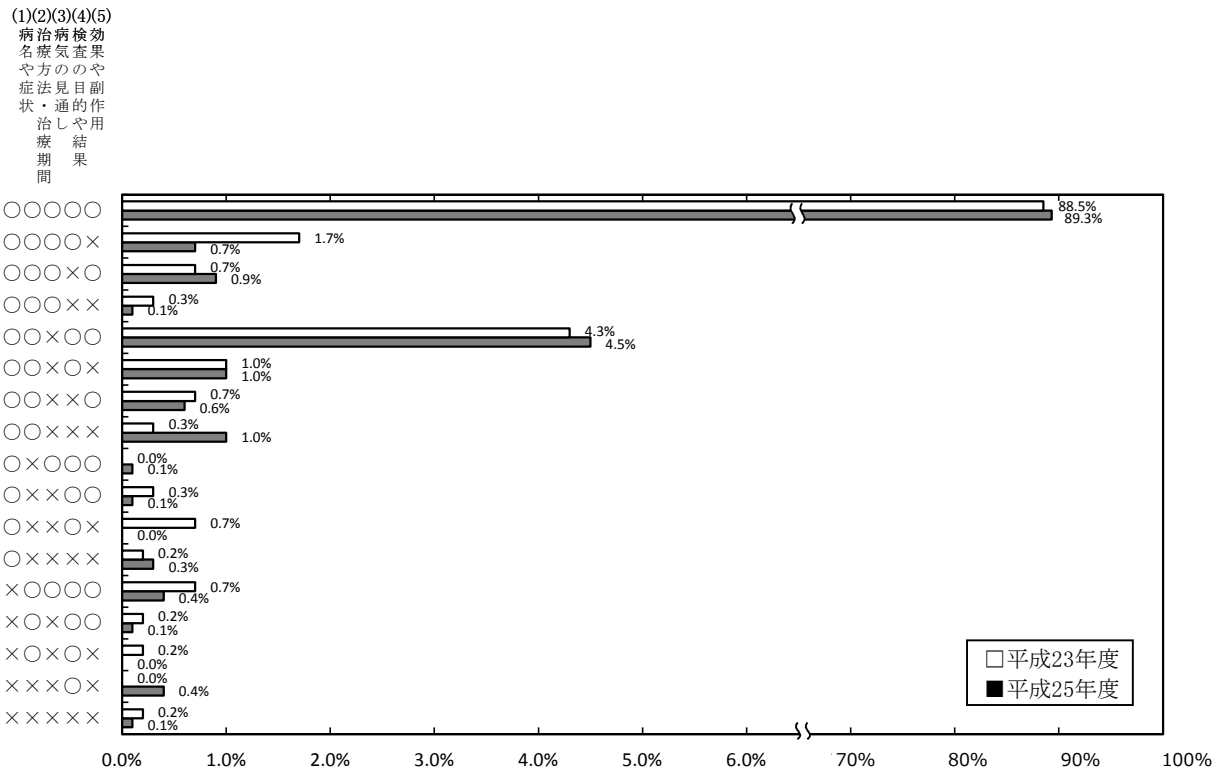
説明の内容の組み合わせをみると、全質問項目の説明を受けた患者が89.3%と最も多く、次いで「病気の見通し」の説明だけが無かった患者の4.5%となっている。（図1）

表1 医師から受けた診療に関する説明の状況（基本集計）

	H25年度（回答数：744）				H23年度（回答数：620）		
	はい	いいえ	わからない	無回答	はい	いいえ	無回答
(1) 病名や病気による症状の説明はありましたか？	709 (95.3)	10 (1.3)	0 0.0	25 (3.4)	610 (98.4)	8 (1.3)	2 (0.3)
(2) 治療の方法や治療期間の説明はありましたか？	703 (94.5)	9 (1.2)	4 (0.5)	28 (3.8)	606 (98.4)	9 (1.3)	5 (0.3)
(3) 病気のその後の見通しについて説明はありましたか？	640 (86.0)	62 (8.3)	4 (0.5)	38 (5.1)	553 (89.2)	50 (8.1)	17 (2.7)
(4) 各種検査の目的や結果の説明はありましたか？	684 (91.9)	23 (3.1)	2 (0.3)	35 (4.7)	596 (96.1)	15 (2.4)	9 (1.5)
(5) 治療(手術、化学療法、放射線療法)の効果や副作用(術後の障害を含む)について説明はありましたか？	683 (91.8)	28 (3.8)	4 (0.5)	29 (3.9)	583 (94.0)	27 (4.4)	10 (1.6)
上記の問に対して、いずれかに「はい」と回答したもの	722 (97.0)				617 (99.5)		

注：（ ）内は、回答数に対する割合(%)である。

図1 医師から受けた説明の内容の組み合わせ（基本集計）



(2) 医師から受けた説明の分かりやすさ等の状況（問5）

初めて治療を開始したときの医師から受けた説明の分かりやすさ等の状況を見ると「はい」と回答した患者は、「丁寧に詳しくされた」が88.0%で最も多くなっている。（表2）

分かりやすさ等の組み合わせをみると、全質問項目に「はい」と回答した患者が83.5%と最も多くなっている。（図2）

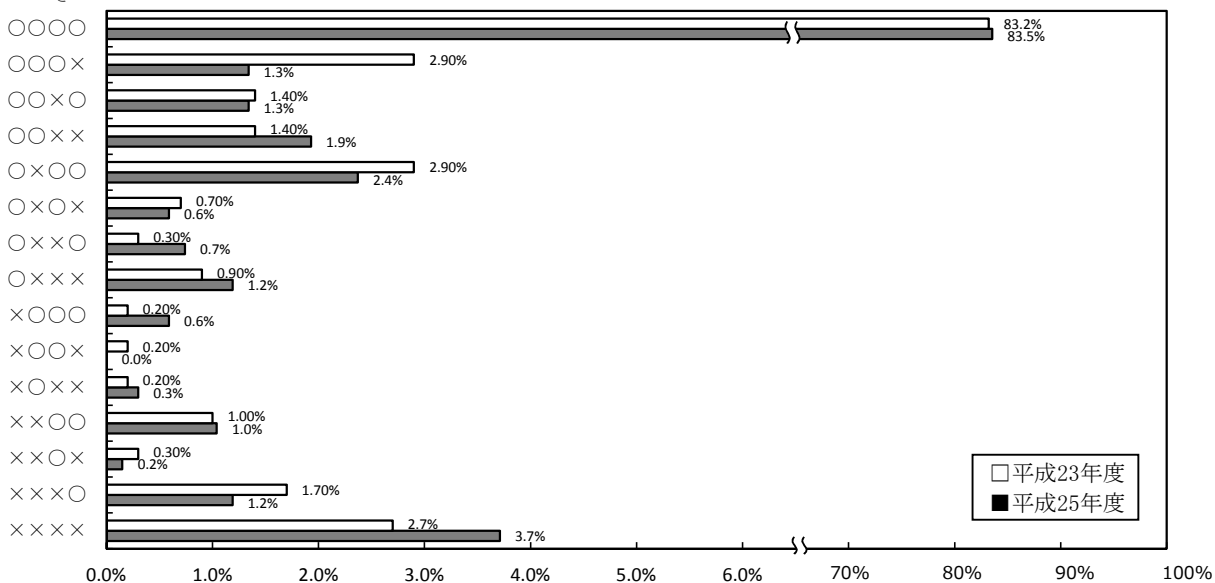
表2 医師から受けた説明の分かりやすさ等の状況（基本集計）

	H25年度（回答数：744）				H23年度（回答数：620）		
	はい	いいえ	わからない	無回答	はい	いいえ	無回答
(6) 医師からの説明は、丁寧に詳しくされましたか？	655 (88.0)	54 (7.3)	4 (0.5)	31 (4.2)	570 (91.9)	40 (6.5)	10 (1.6)
(7) 医師の説明にかかる時間はちょうど良いと思いませんか？	619 (83.2)	79 (10.6)	5 (0.7)	41 (5.5)	531 (85.6)	65 (10.5)	24 (3.9)
(8) 医師の説明は分かりやすかったですか？	632 (84.9)	76 (10.2)	4 (0.5)	32 (4.3)	547 (88.2)	52 (8.4)	21 (3.4)
(9) 医師の説明で、内容は理解できましたか？	638 (85.8)	66 (8.9)	5 (0.7)	35 (4.7)	541 (87.3)	59 (9.5)	20 (3.2)

注：（ ）内は、回答数に対する割合(%)である。

図2 医師から受けた説明の分かりやすさ等の組み合わせ（基本集計）

(6)(7)(8)(9)
丁寧説明内容
で時間の
詳細な理
解のしやす
い長さや
説明の
やすさ



(3) 他の医師からの意見聴取（セカンドオピニオン）の状況（問5）

初めて治療を開始したときに、「他の医師に意見を聞きたいと思ったか」の間に「はい」と回答した患者は28.9%となっており、実際に「他の医師に意見を聞いたか」の間に「はい」と回答した患者は20.0%となっている。

セカンドオピニオンについての医師からの説明の有無について「いいえ（無い）」と回答した患者は57.0%となっており、「セカンドオピニオンを知っていたか」の間に「はい」と回答した患者は55.8%となっている。（表3）

表3 他の医師からの意見聴取（セカンドオピニオン）の状況（基本集計）

	H25年度（回答数：744）				H23年度（回答数：620）		
	はい	いいえ	わからない	無回答	はい	いいえ	無回答
(10) 病気のことについて他の医師に意見を聞きたいと思いましたが？	215 (28.9)	489 (65.7)	3 (0.4)	37 (5.0)	175 (28.2)	430 (69.4)	15 (2.4)
(11) 病気のことについて他の医師に意見を聞く(セカンドオピニオン)ことが出来ることについて説明はありましたか？	263 (35.3)	424 (57.0)	7 (0.9)	50 (6.7)	189 (30.5)	394 (63.5)	37 (6.0)
(12) 病気のことについて他の医師に意見を聞く(セカンドオピニオン)ことが出来ることについて知っていましたか？	415 (55.8)	293 (39.4)	4 (0.5)	32 (4.3)	342 (55.2)	260 (41.9)	18 (2.9)
(13) 病気のことについて他の医師に意見を聞きましたか？	149 (20.0)	565 (75.9)	1 (0.1)	29 (3.9)	92 (14.8)	516 (83.2)	12 (1.9)

注：（ ）内は、回答数に対する割合(%)である。

(4) 相談支援、緩和ケアについての状況（問5）

初めて治療を開始したときに、「相談窓口に相談したいと思ったか」の間に「はい」と回答した患者は20.2%となっており、「相談しましたか」の間に「はい」と回答した患者は7.4%となっている。

体や心の痛みを和らげるための支援（緩和ケア）を「受けたいと思ったか」の間に「はい」と回答した患者は32.4%で、「受けましたか」の間に「はい」と回答した患者は17.3%となっている。（表4）

表4 相談支援、緩和ケアについての状況（基本集計）

	H25年度（回答数：744）				H23年度（回答数：620）		
	はい	いいえ	わからない	無回答	はい	いいえ	無回答
(14) 病気のことです不安になり、医療機関の「相談窓口」や「がん相談センターこうち」に相談をしたいと思ったことはありますか？	150 (20.2)	565 (75.9)	1 (0.1)	28 (3.8)	108 (17.4)	505 (81.5)	7 (1.1)
(15) 病気による不安について、医療機関の「相談窓口」や「がん相談センターこうち」に相談をしましたか？	55 (7.4)	661 (88.8)	1 (0.1)	27 (3.6)	25 (4.0)	587 (94.7)	8 (1.3)
(16) 病気による体や心の痛みを和らげるための支援を、医療機関で受けたいと思いましたが？	241 (32.4)	470 (63.2)	0 (0.0)	33 (4.4)	193 (31.1)	414 (66.8)	13 (2.1)
(17) 病気による体や心の痛みを和らげるための支援を、医療機関で受けましたか？	129 (17.3)	580 (78.0)	1 (0.1)	34 (4.6)	89 (14.4)	520 (83.9)	11 (1.8)

注：（ ）内は、回答数に対する割合(%)である。

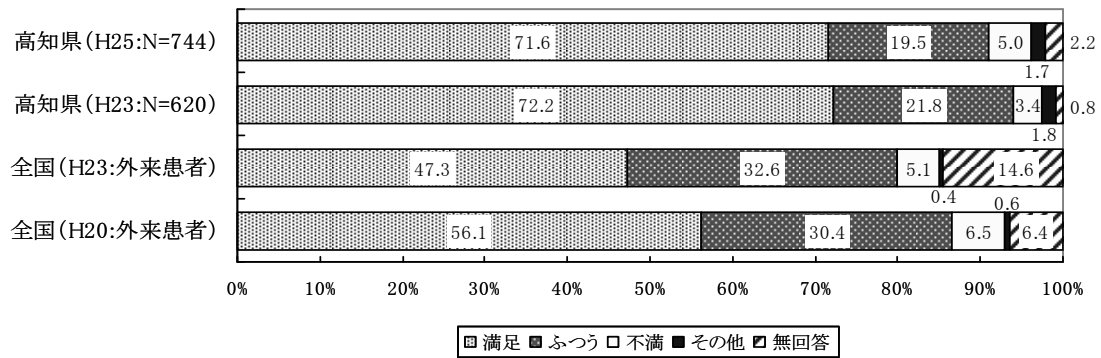
(5) 医師により説明を受け、初めて治療を開始したときの満足度 (問6)

ア 受けた診療・治療内容の満足度

初めて治療を開始したときに受けた診療・治療内容について「満足」していると回答した患者は71.6%、「不満」と回答した患者は5.0%となっている。

厚生労働省が行った平成23年受療行動調査での全外来患者の満足度 (47.3%) と比較してみると、24.3ポイント上回っている。(図3)

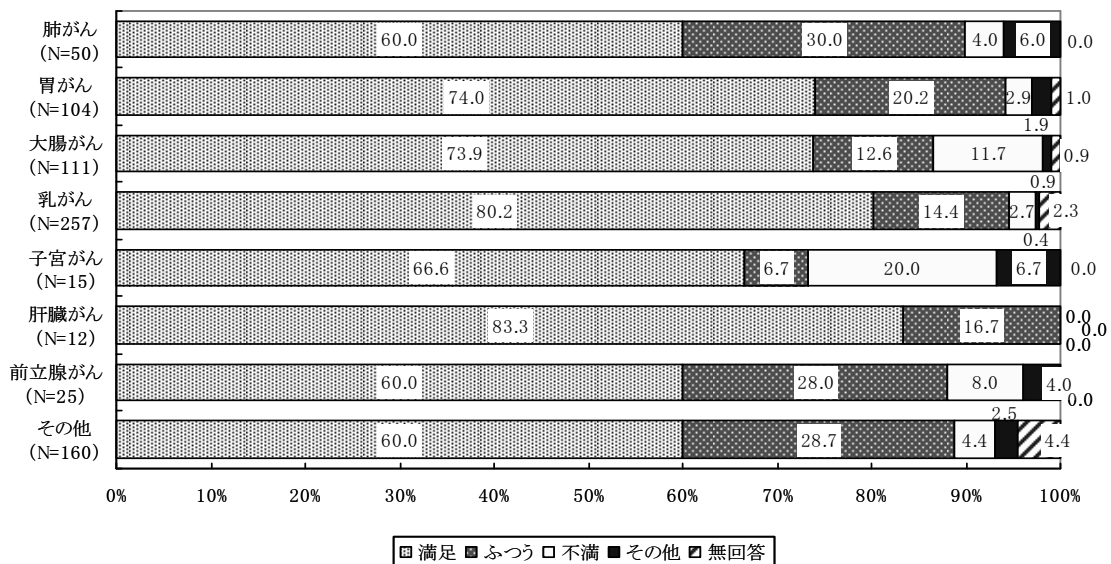
図3 初めて治療を開始したときに受けた診療・治療内容に対する満足度の状況 (基本集計)



※全国値は平成23年、20年受療行動調査結果での、全外来患者の「外来患者の受けている診療・治療内容の満足度」の値

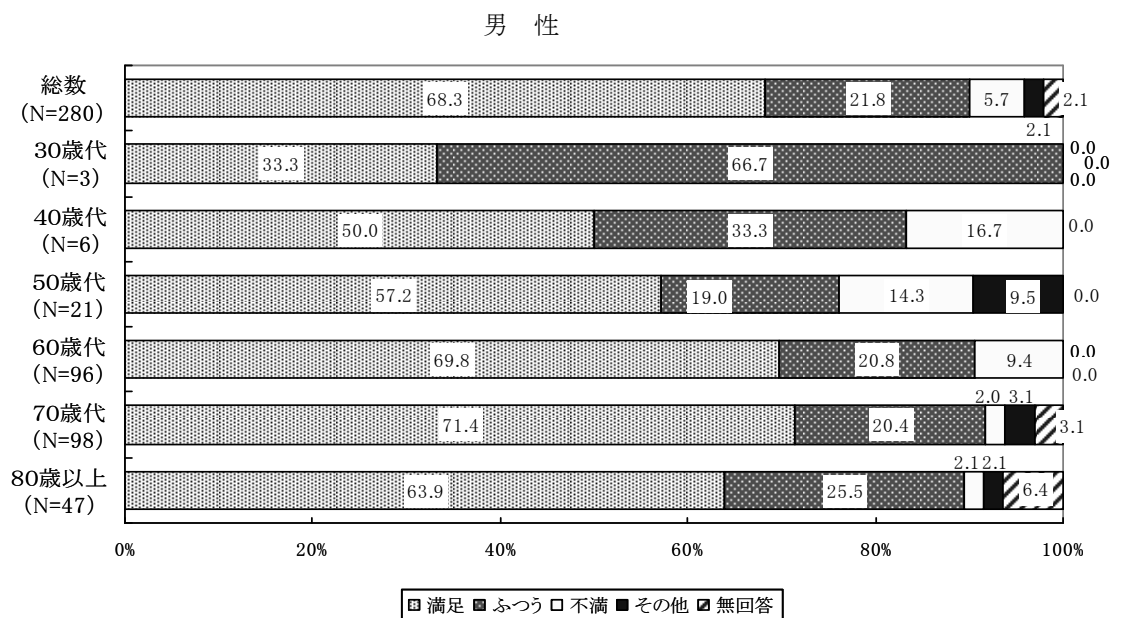
疾病別にみると、「満足」していると回答した患者は「肝臓がん」が最も多く83.3%で、次いで「乳がん」の80.2%となっており、「肺がん」「前立腺がん」「その他」が60.0%で最も少なくなっている。(図4)

図4 疾病別の初めて治療を開始したときに受けた診療・治療内容に対する満足度の状況 (基本集計)

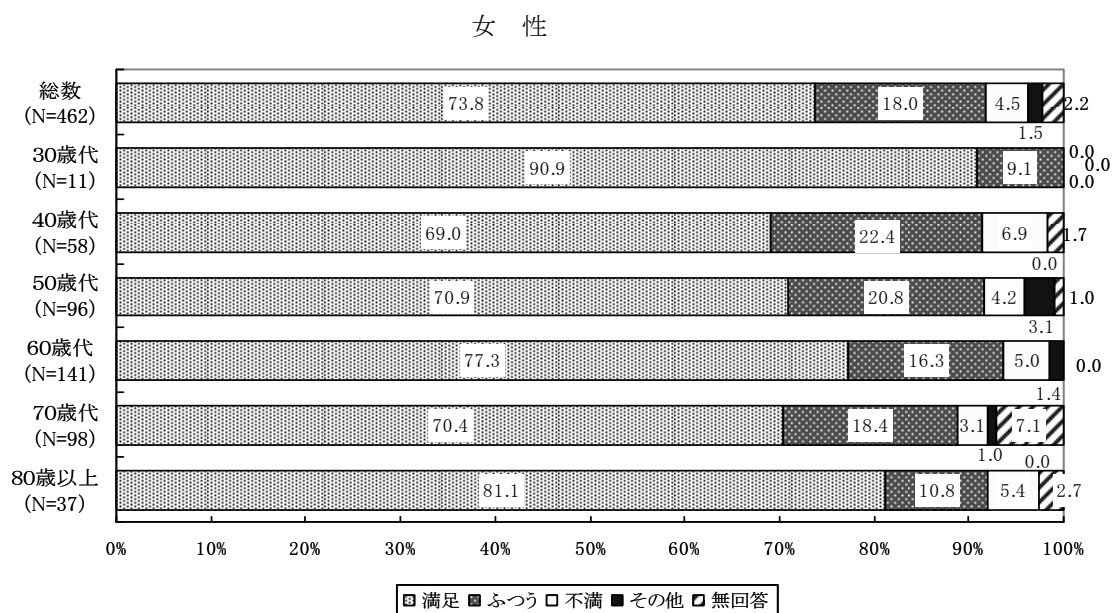


性・年齢別にみると、「満足」していると回答した患者は、男性68.3%、女性73.8%となっている。（図5）

図5 性・年齢別の初めて治療を開始したときに受けた診療・治療内容に対する満足度の状況（基本集計）



注：総数には年齢不詳を含む。また30歳未満の回答数は0であった。



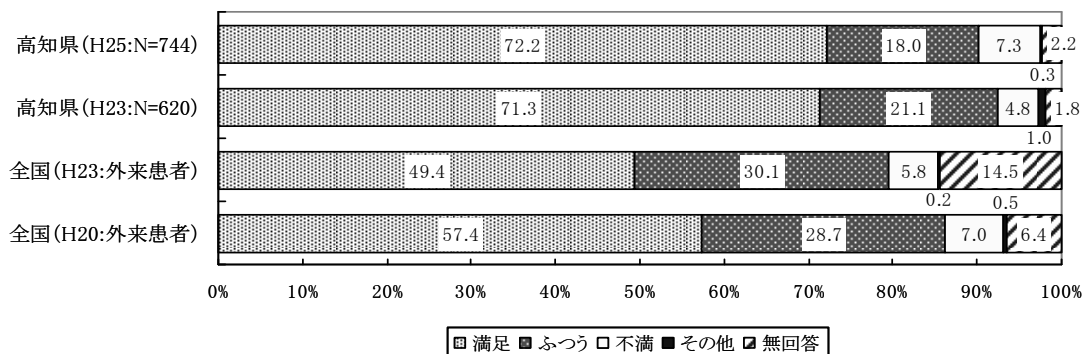
注：総数には年齢不詳を含む。また30歳未満の回答数は0であった。

イ 医師の説明に対する満足度

初めて治療を開始したときの医師の説明について「満足」していると回答した患者は72.2%、「不満」と回答した患者は7.3%となっている。

厚生労働省が行った平成23年受療行動調査での全外来患者の満足度（49.4%）と比較してみると、22.8ポイント上回っている。（図6）

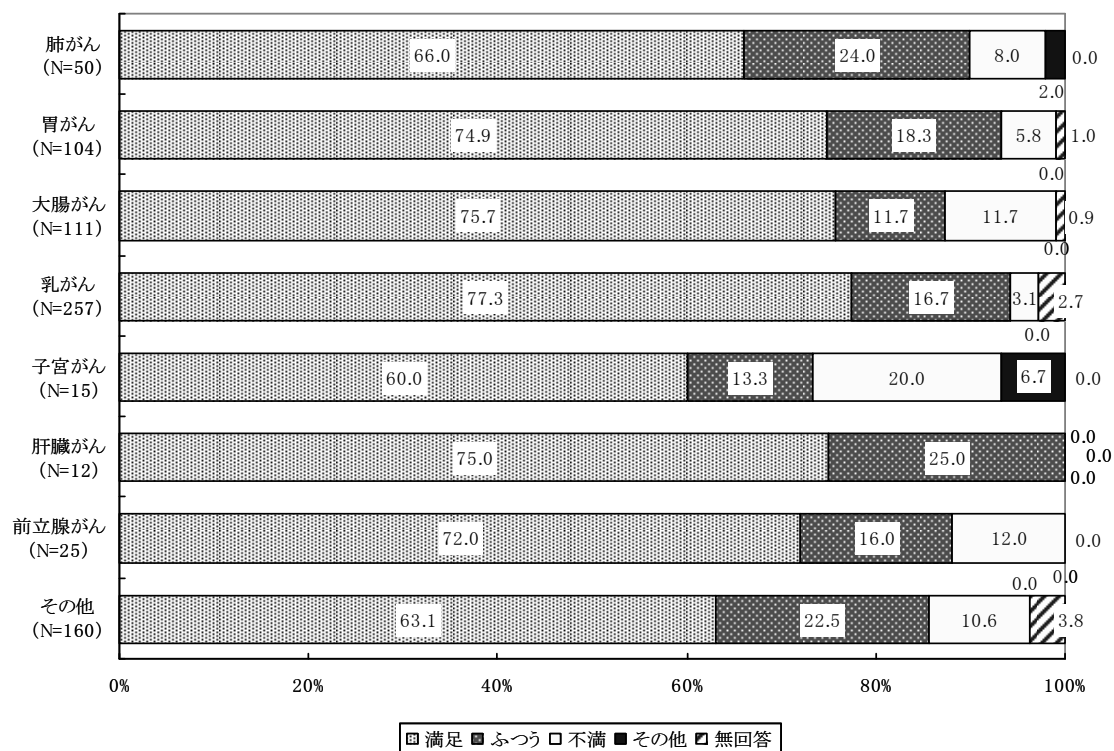
図6 初めて治療を開始したときの医師の説明に対する満足度の状況（基本集計）



※全国値は平成23年、20年受療行動調査結果での、全外来患者の「外来患者の医師との対話の満足度」の値

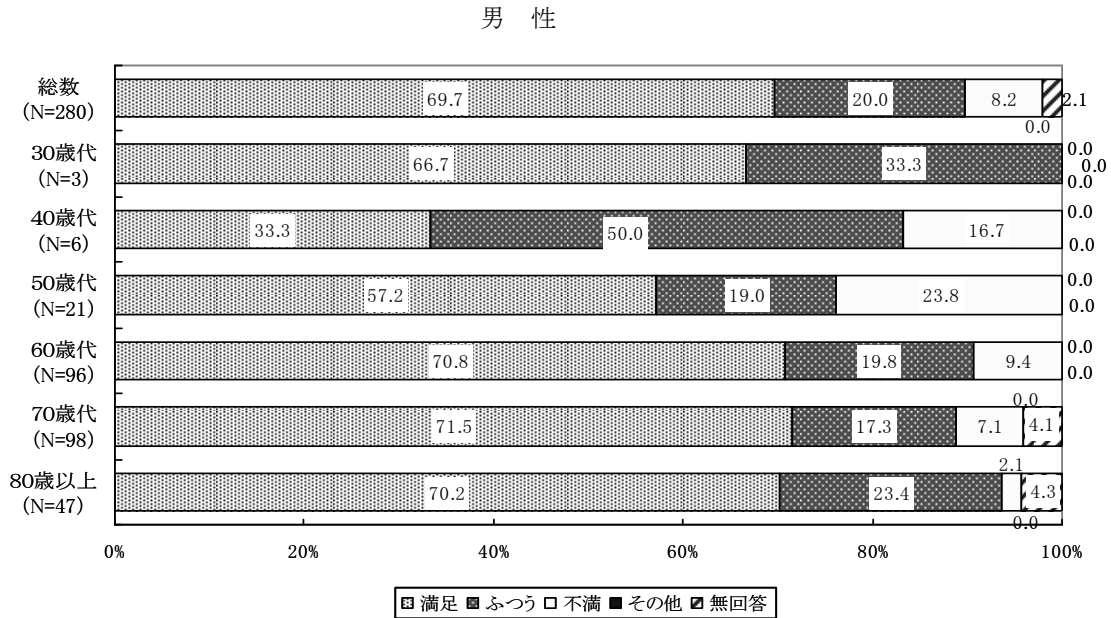
疾病別にみると、「満足」していると回答した患者は「乳がん」が最も多く77.3%で、次いで「大腸がん」の75.7%となっており、「子宮がん」が60.0%で最も少なくなっている。（図7）

図7 疾病別の初めて治療を開始したときの医師の説明に対する満足度の状況（基本集計）

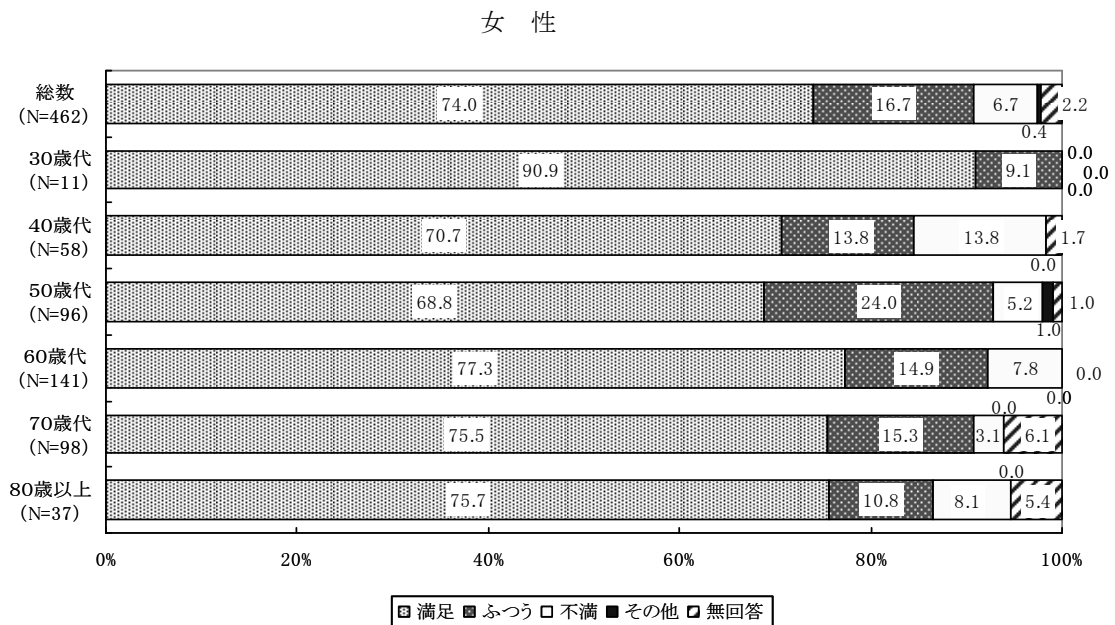


性・年齢別にみると、「満足」していると回答した患者は、男性69.7%、女性74.0%となっており、女性の方が高くなっている。「不満」と回答した患者は男性が50歳代、女性が40歳代で最も多くなっている。(図8)

図8 性・年齢別の初めて治療を開始したときの医師の説明に対する満足度の状況（基本集計）



注：総数には年齢不詳を含む。また30歳未満の回答数は0であった。



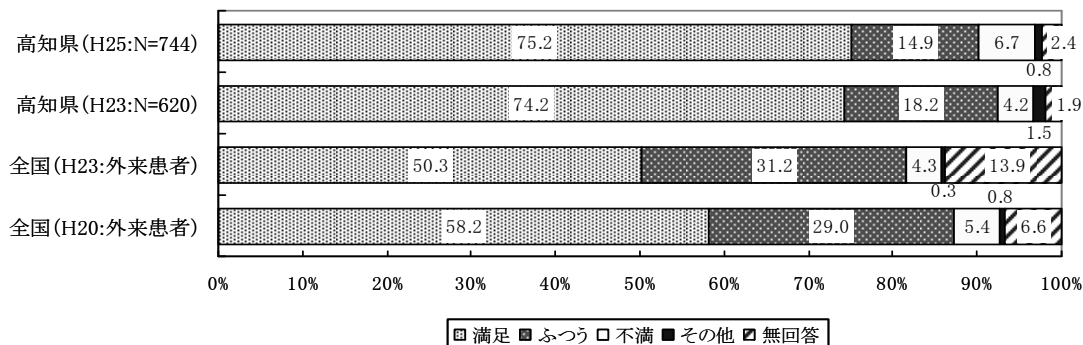
注：総数には年齢不詳を含む。また30歳未満の回答数は0であった。

ウ 病院に対する全体的な満足度

初めて治療を開始したときの病院を全体として「満足」していると回答した患者は75.2%、「不満」と回答した患者は6.7%となっている。

厚生労働省が行った平成23年受療行動調査での全外来患者の満足度（50.3%）と比較してみると、24.9ポイント上回っている。（図9）

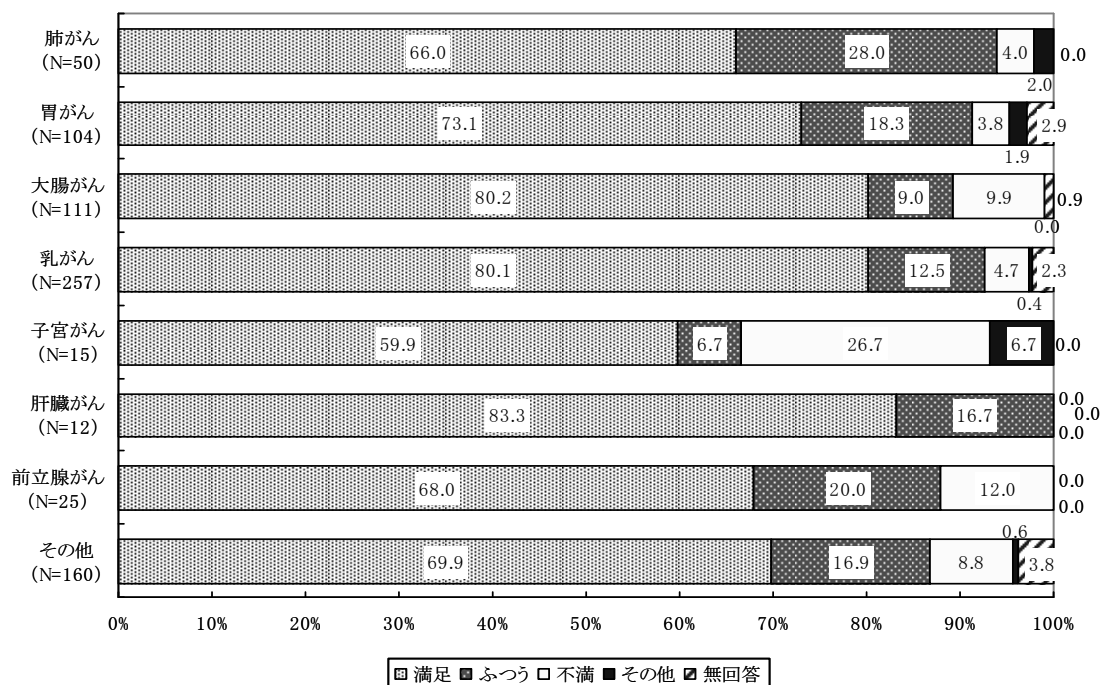
図9 初めて治療を開始したときの病院に対する全体的な満足度の状況（基本集計）



※全国値は平成23年、20年受療行動調査結果での、全外来患者の「外来患者の病院に対する全体的な満足度」の値

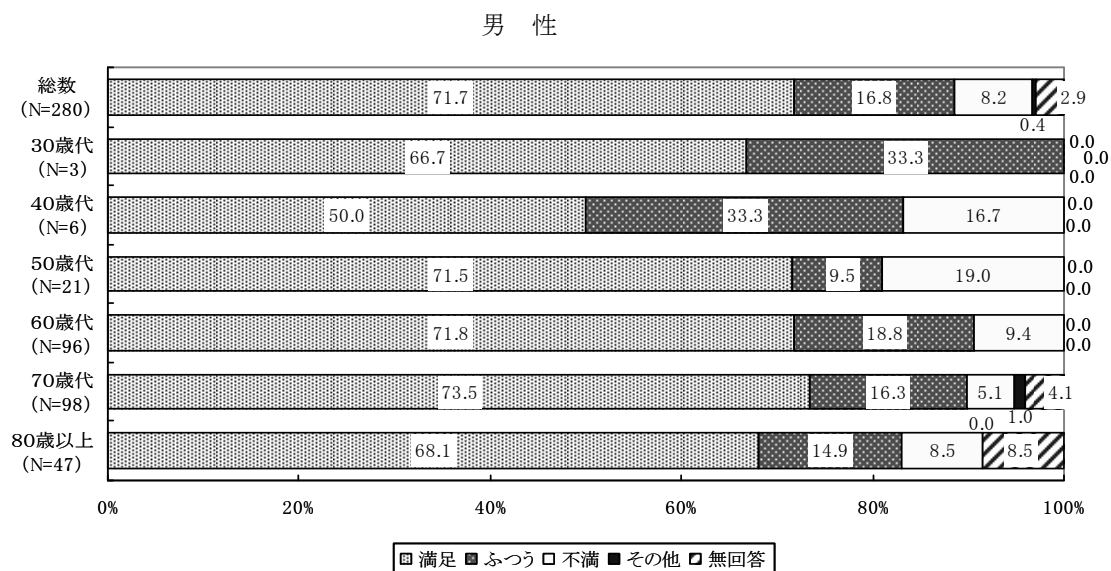
疾病別にみると、「満足」していると回答した患者は「肝臓がん」が最も多く83.3%で、次いで「大腸がん」の80.2%となっており、「子宮がん」が59.9%で最も少なくなっている。（図10）

図10 疾病別の初めて治療を開始したときの病院に対する全体的な満足度の状況（基本集計）

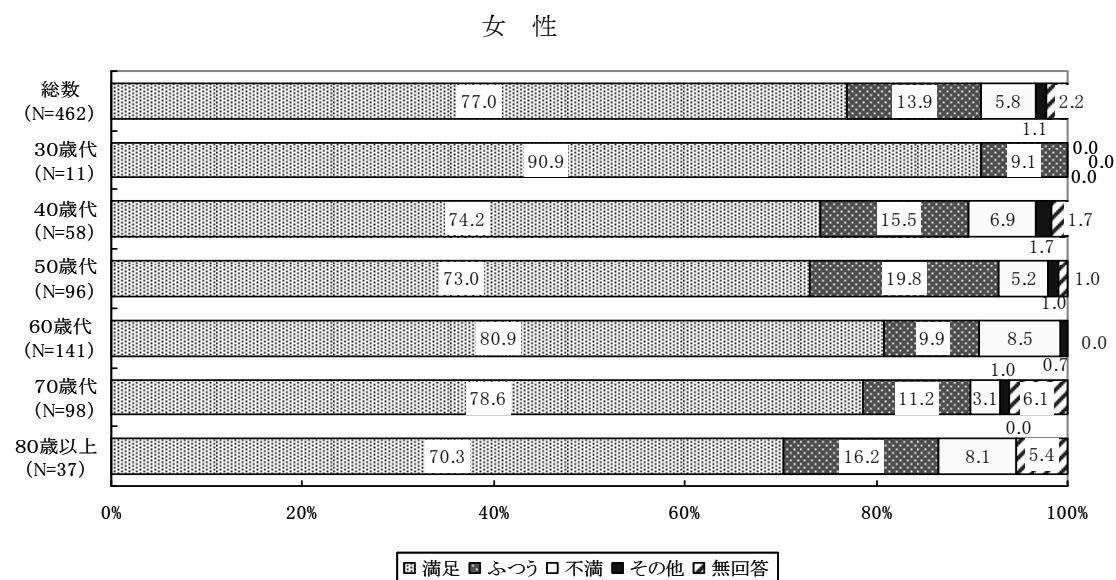


性別・年齢別にみると、「満足」していると回答した患者は、男性71.7%、女性77.0%となっており、女性の方が高くなっている。「不満」と回答した患者は男性が50歳代、女性が60歳代で最も多くなっている。(図11)

図11 性別・年齢別の初めて治療を開始したときの病院に対する全体的な満足度の状況 (基本集計)



注：総数には年齢不詳を含む。また30歳未満の回答数は0であった。



注：総数には年齢不詳を含む。また30歳未満の回答数は0であった。

2 入院による治療を受けたときのこと（問7、問9、問10関係）

（1）入院治療の状況（問7）

「入院して治療を受けたことがあるか」の間に「はい」と回答した患者は88.6%、「いいえ」と回答した患者は8.1%、無回答は3.4%となっている。

（2）医師などから受けた入院治療に関する説明の状況（問9）

入院して治療を受けたことのある者への「入院治療中に治療状況の説明があったか」の間に「はい」と回答した患者は94.4%となっているが、「看護や介助に関する説明」や「転院・退院に関する説明」があったかの間に「はい」と回答した患者は、それぞれ74.1%と73.1%で約20ポイント少なくなっている。（表5）

表5 医師などから受けた入院治療に関する説明の状況（基本集計）

	H25年度（回答数：659）				H23年度（回答数：567）		
	はい	いいえ	わからない	無回答	はい	いいえ	無回答
(1) 入院治療中に、医師から治療状況の説明はありましたか？	622 (94.4)	17 (2.6)	4 (0.6)	16 (2.4)	543 (95.8)	12 (2.1)	12 (2.1)
(5) 看護や介助に関する説明はありましたか？	488 (74.1)	136 (20.6)	5 (0.8)	30 (4.6)	399 (70.4)	134 (23.6)	34 (6.0)
(6) 転院や退院に関する説明は十分にありましたか？	482 (73.1)	149 (22.6)	3 (0.5)	25 (3.8)	423 (74.6)	110 (19.4)	34 (6.0)

注：（）内は、回答数に対する割合（%）である。

（3）入院中の不安などに関する状況（問9）

「入院治療に関する不安があったか」の間に「はい」と回答した患者は44.3%、「いいえ」と回答した患者は50.7%となっている。

「医師からの説明が丁寧にされたか」の間に「はい」と回答した患者は88.3%で、初めて診断されたとき（88.0%）と同程度となっている。「説明にかける時間はちょうど良いと思ったか」の間については84.8%が「はい」と回答しており、初めて診断されたとき（83.2%）と同程度となっている。（参照 p.2 表2）

「医師や看護師の連携は出来ているか」の間に「はい」と回答した患者は85.9%となっている。

「入院中に緩和ケアチームに関する説明を受けたか」の間に「はい」と回答した患者は29.6%となっており、実際に緩和ケアチームの支援を受けた患者は11.7%となっている。（表6）

表6 入院中の不安などに関する状況（基本集計）

	H25年度（回答数：659）				H23年度（回答数：567）		
	はい	いいえ	わからない	無回答	はい	いいえ	無回答
(2) 入院治療に関する不安はありましたか？	292 (44.3)	334 (50.7)	6 (0.9)	27 (4.1)	258 (45.5)	292 (51.5)	17 (3.0)
(3) 医師からの説明は、丁寧に詳しくされましたか？	582 (88.3)	50 (7.6)	6 (0.9)	21 (3.2)	500 (88.2)	49 (8.6)	18 (3.2)
(4) 医師の説明にかける時間はちょうど良いと思いましたが？	559 (84.8)	72 (10.9)	6 (0.9)	22 (3.3)	472 (83.2)	70 (12.3)	25 (4.4)
(7) 医師や看護師の連携は出来ていると思いませんか？	566 (85.9)	65 (9.9)	6 (0.9)	22 (3.3)	510 (89.9)	37 (6.5)	20 (3.5)
(8) 医療機関から、体や心の痛みを和らげるための支援を行う、緩和ケアチームがあることの説明がありましたか？	195 (29.6)	424 (64.3)	12 (1.8)	28 (4.2)	131 (23.1)	394 (69.5)	42 (7.4)
(9) 緩和ケアチームの支援を利用しましたか？	77 (11.7)	552 (83.8)	6 (0.9)	24 (3.6)	36 (6.3)	500 (88.2)	31 (5.5)

注：（）内は、回答数に対する割合（%）である。

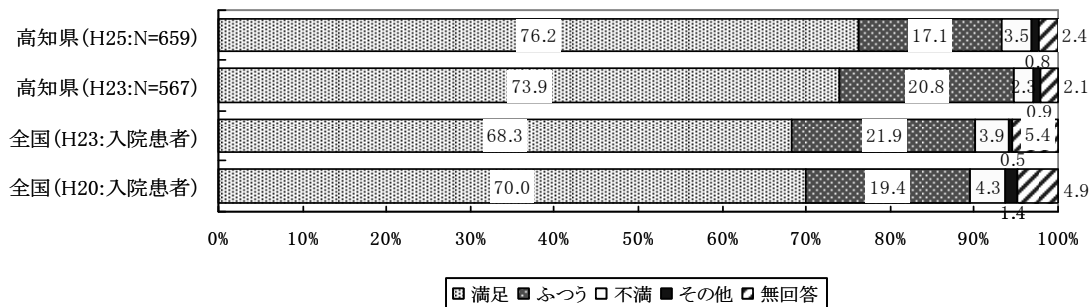
(4) 入院治療の満足度（問10）

ア 受けた診療・治療内容の満足度

入院をしたときに受けた診療・治療内容について「満足」していると回答した患者は76.2%、「不満」と回答した患者は3.5%となっている。

厚生労働省が行った平成23年受療行動調査での全入院患者の満足度（68.3%）と比較してみると、7.9ポイント上回っている。（図12）

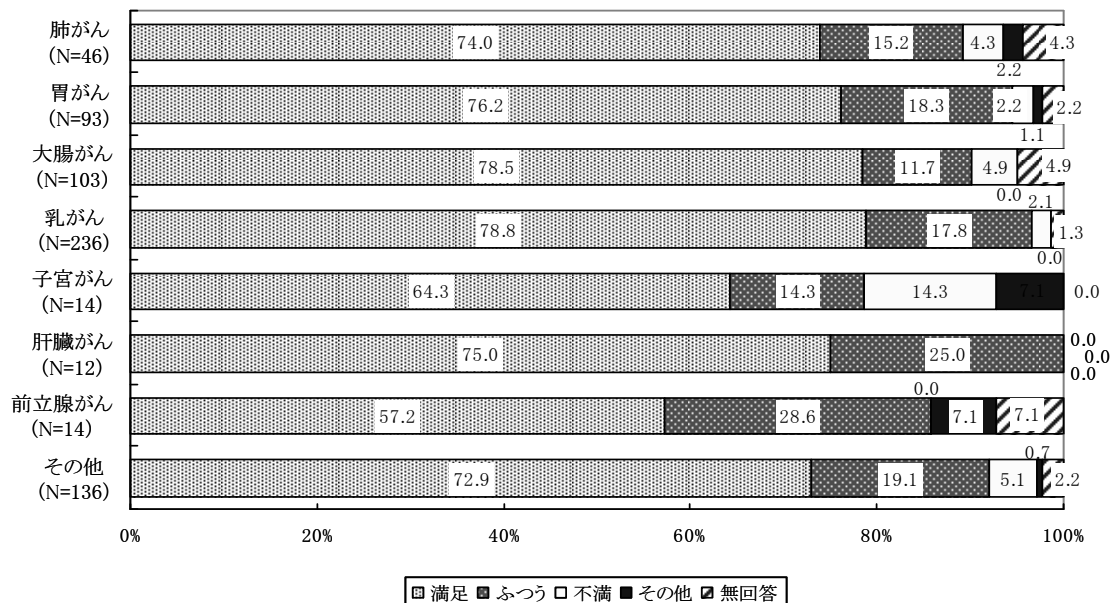
図12 入院をしたときに受けた診療・治療内容に対する満足度の状況（基本集計）



※全国値は平成23年、20年受療行動調査結果での、全入院患者の「入院患者の受けている診療・治療内容の満足度」の値

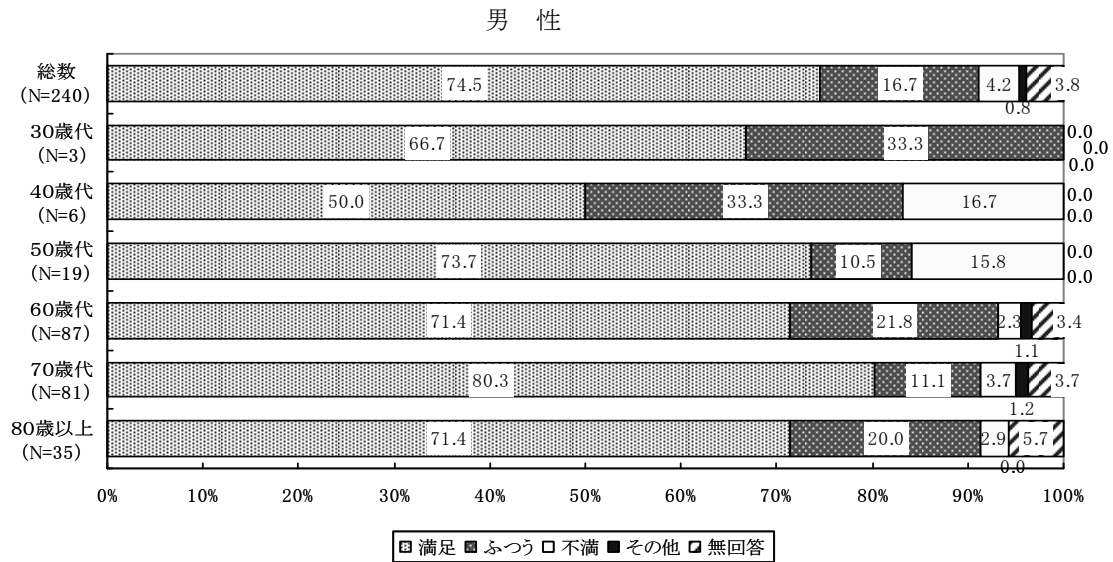
疾病別にみると、「満足」していると回答した患者は「乳がん」が最も多く78.8%で、次いで「大腸がん」の78.5%となっており、「前立腺がん」が57.2%で最も少なくなっている。（図13）

図13 疾病別の入院をしたときに受けた診療・治療内容に対する満足度の状況（基本集計）

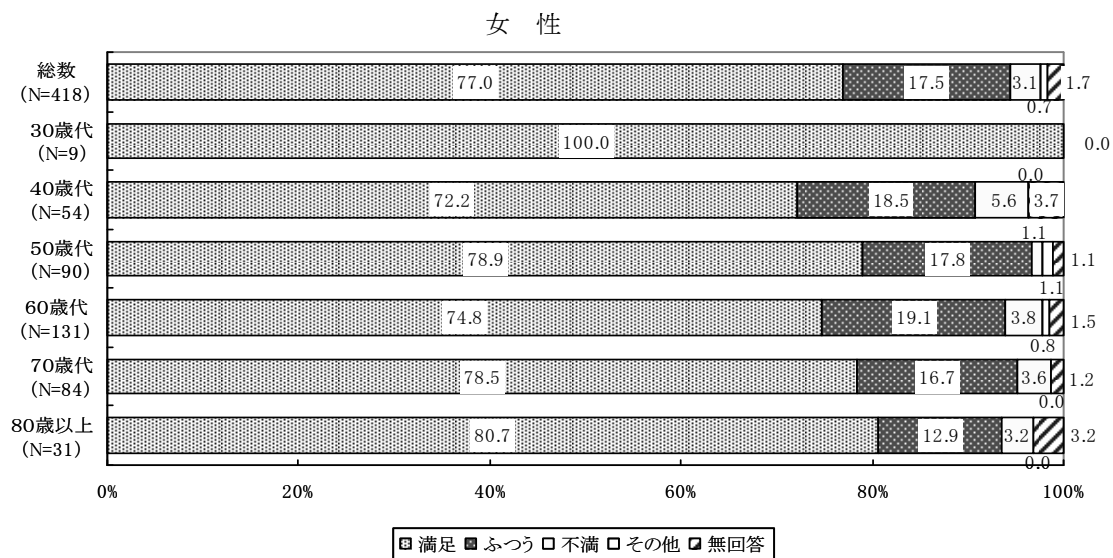


性・年齢（現在の年齢）別にみると、「満足」していると回答した患者は、男性74.5%、女性77.0%となっており、女性の方が高くなっている。「不満」と回答した患者は男女ともに40歳代で最も多くなっている。（図14）

図14 性・年齢別の入院をしたときに受けた診療・治療内容に対する満足度の状況（基本集計）



注：総数には年齢不詳を含む。また30歳未満の回答数は0であった。



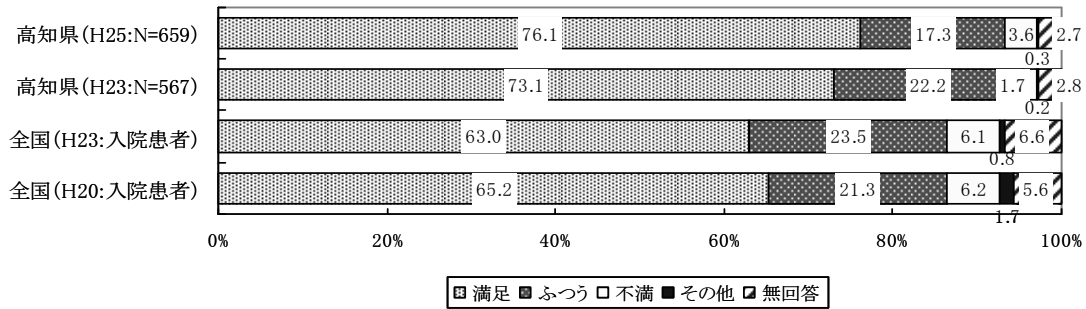
注：総数には年齢不詳を含む。また30歳未満の回答数は0であった。

イ 入院時の対応に対する満足度

入院治療をしたときの対応について「満足」していると回答した患者は76.1%、「不満」と回答した患者は3.6%となっている。

厚生労働省が行った平成23年受療行動調査での全入院患者の満足度（63.0%）と比較してみると、13.1ポイント上回っている。（図15）

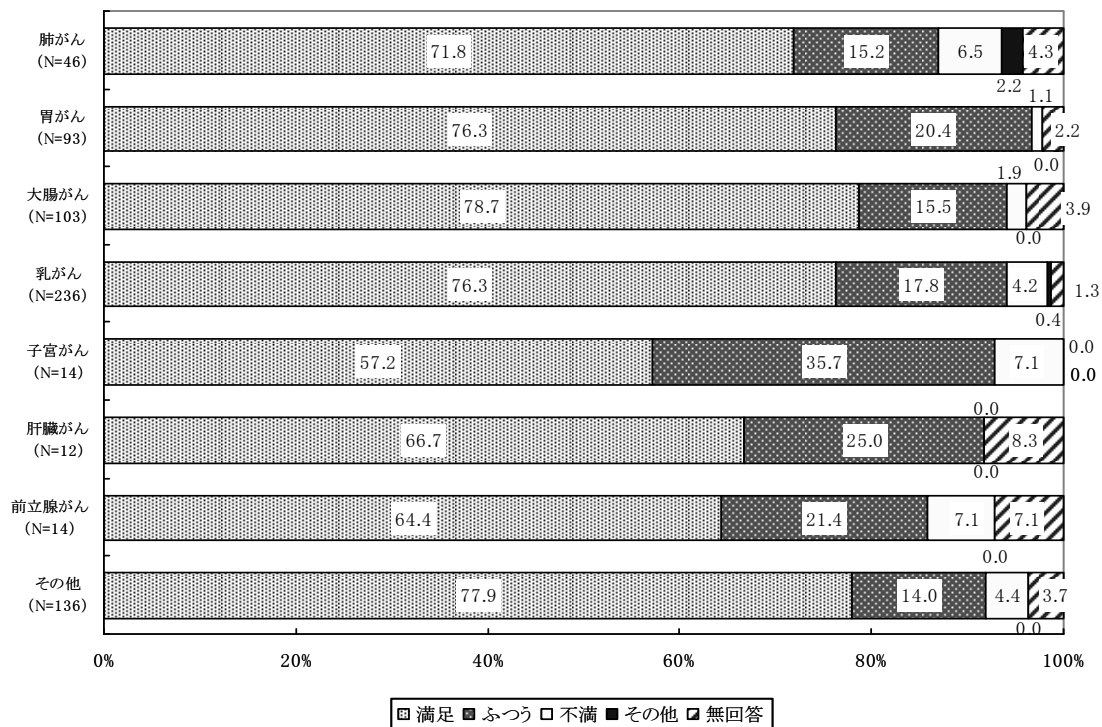
図15 入院治療をしたときの対応に対する満足度の状況（基本集計）



※全国値は平成23年、20年受療行動調査結果での、全入院患者の「入院患者の医師との対話の満足度」の値

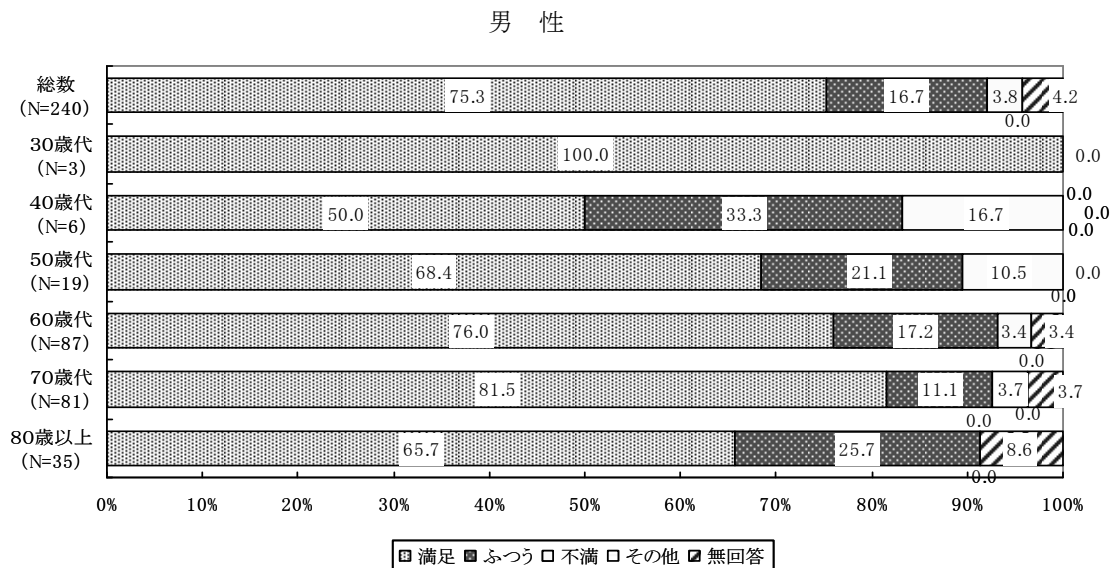
疾病別にみると、「満足」していると回答した患者は「大腸がん」が最も多く78.7%で、次いで「その他」の77.9%となっており、「子宮がん」が57.2%で最も少なくなっている。（図16）

図16 疾病別の入院治療をしたときの対応に対する満足度の状況（基本集計）

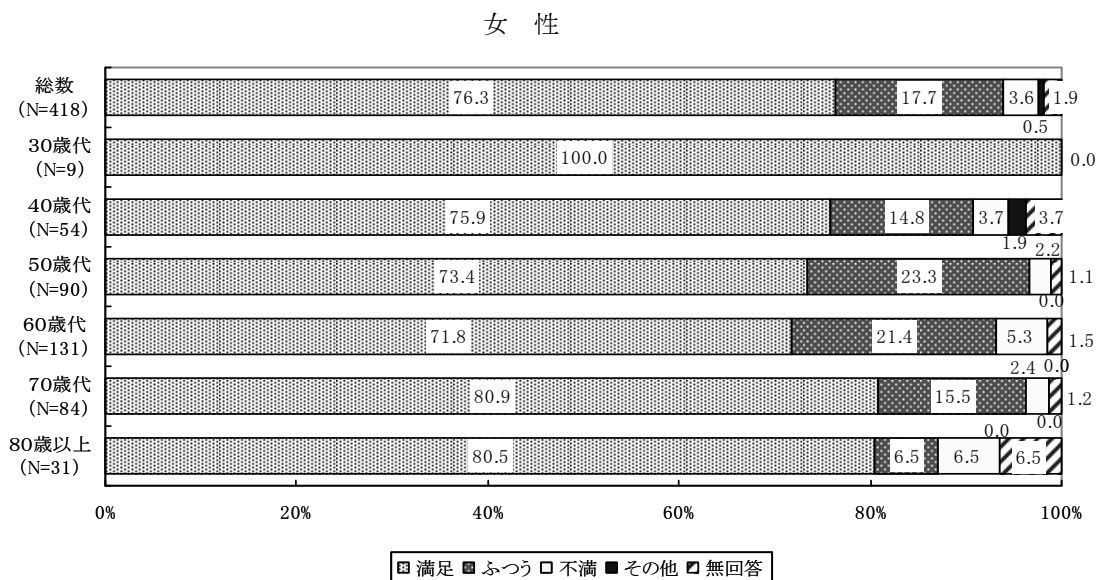


性・年齢別にみると、「満足」していると回答した患者は、男性75.3%、女性76.3%となっている。（図17）

図17 性・年齢別の初めて治療を開始したときの対応に対する満足度の状況（基本集計）



注：総数には年齢不詳を含む。また30歳未満の回答数は0であった。



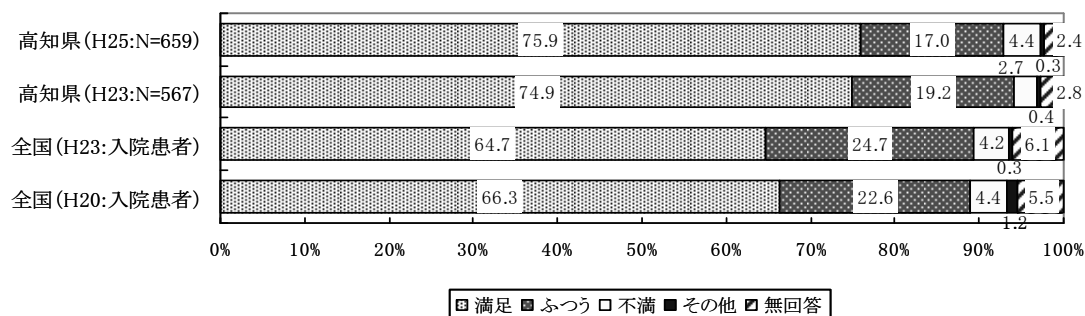
注：総数には年齢不詳を含む。また30歳未満の回答数は0であった。

ウ 病院に対する全体的な満足度

入院治療をしたときの病院を全体として「満足」していると回答した患者は75.9%、「不満」と回答した患者は4.4%となっている。

厚生労働省が行った平成23年受療行動調査での全入院患者の満足度（64.7%）と比較してみると、11.2ポイント上回っている。（図18）

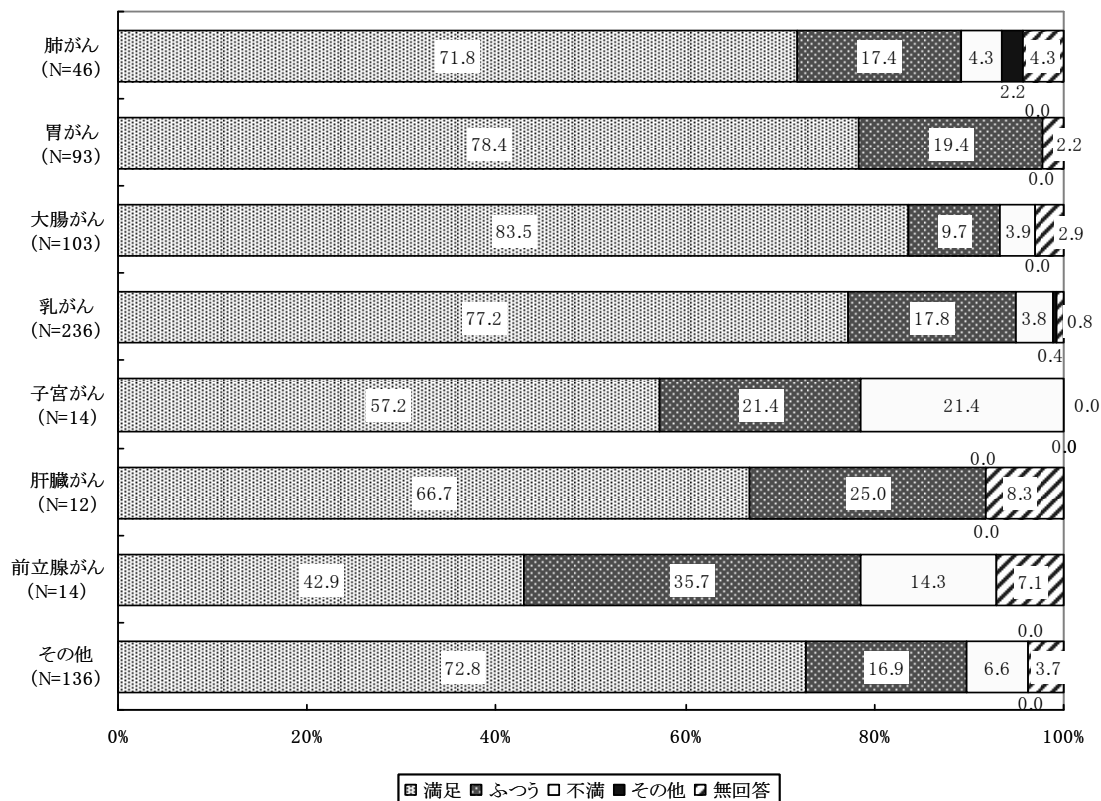
図18 入院治療をしたときの病院に対する全体的な満足度の状況（基本集計）



※全国値は平成23年、20年受療行動調査結果での、全入院患者の「入院患者の病院に対する全体的な満足度」の値

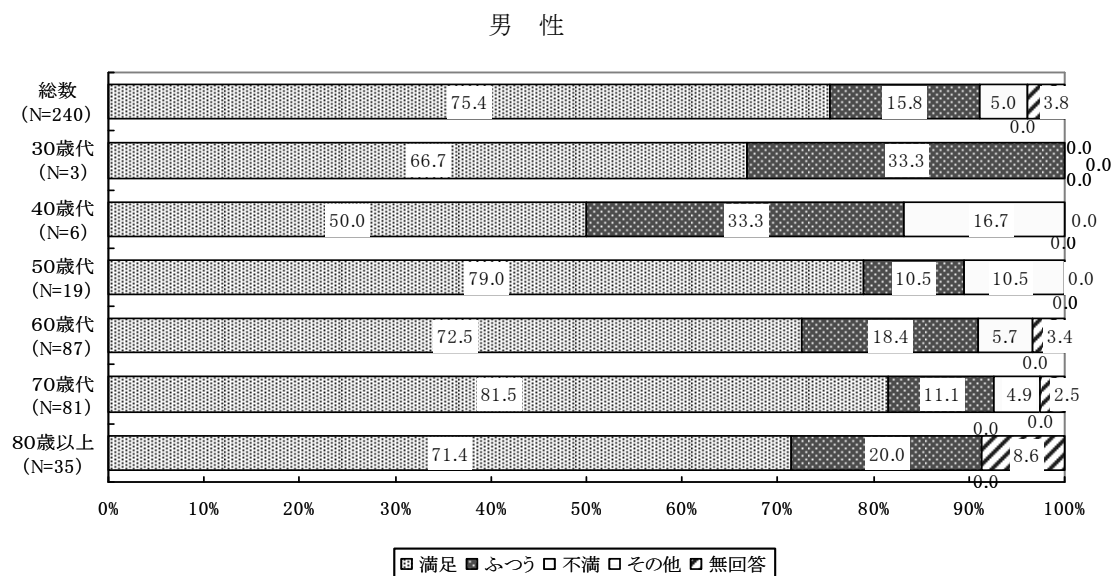
疾病別にみると、「満足」していると回答した患者は「大腸がん」が最も多く83.5%で、次いで「胃がん」の78.4%となっており、「前立腺がん」が42.9%で最も少なくなっている。（図19）

図19 疾病別の入院治療をしたときの病院に対する全体的な満足度の状況（基本集計）

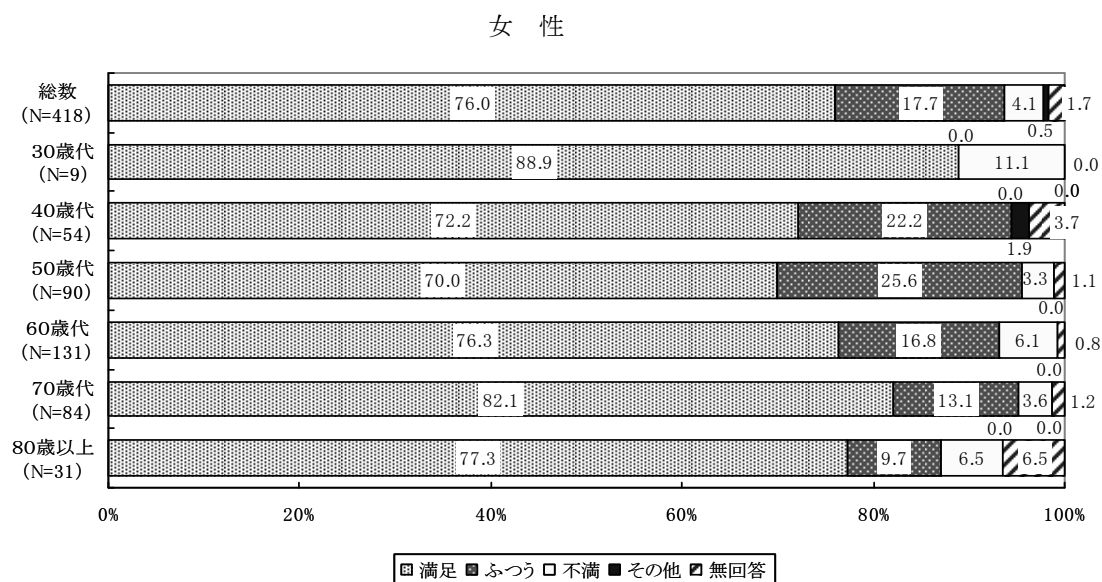


性・年齢別にみると、「満足」していると回答した患者は、男性75.4%、女性76.0%となっている。「不満」と回答した患者は男性は40歳代で、女性は30歳代で最も多くなっている。(図20)

図20 性・年齢別の入院治療をしたときの病院に対する全体的な満足度の状況（基本集計）



注：総数には年齢不詳を含む。また30歳未満の回答数は0であった。



注：総数には年齢不詳を含む。また30歳未満の回答数は0であった。

3 医師に対する患者からの質問に関すること (問11～問15関係)

(1) 医師への患者からの質問の状況 (問11)

「医師に対して診療に関する質問や相談をしたことがあるか」の問に「ある」と回答した患者は75.9%、「なし」と回答した患者は19.6%、無回答は4.4%となっている。

(2) 医師に対して行った質問や相談の時期の状況 (複数回答) (問12)

医師に対して質問や相談を行った時期は「初診、治療開始時」が最も多く60.5%となっている。(表7)

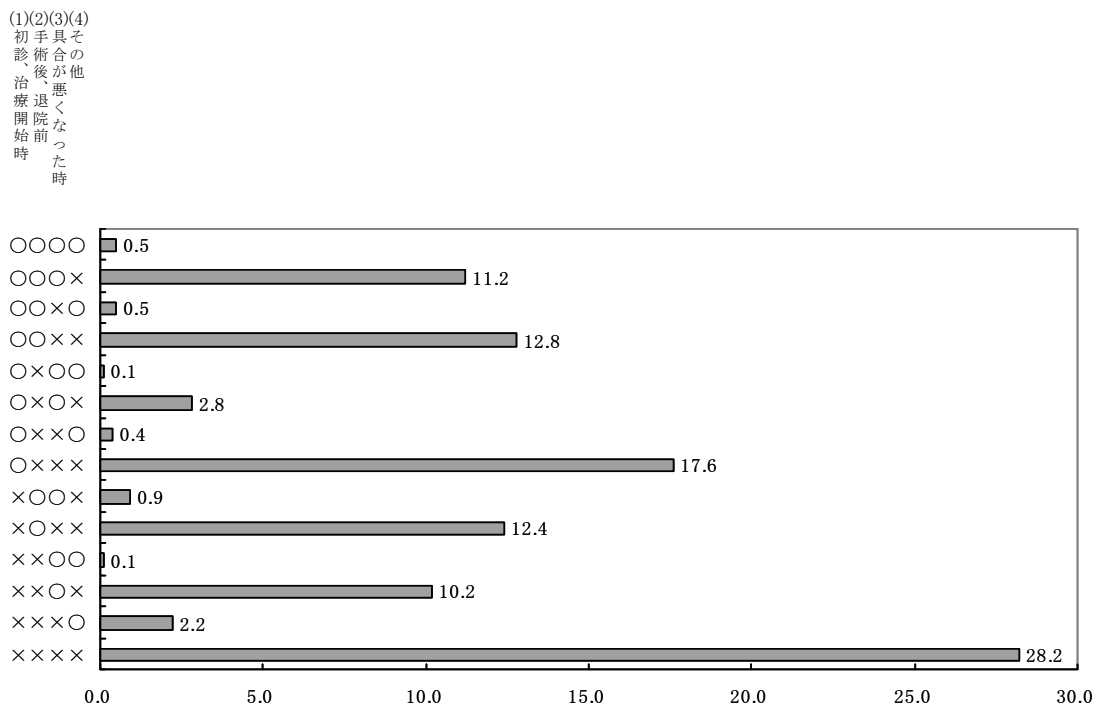
時期の組み合わせを見ると、「初診、治療開始時」のみの患者が17.6%と最も多く、次いで「初診、治療開始時」と「手術後、退院前」の2種類を選択している患者となっている。(図21)

表7 医師に対して行った質問や相談の時期の状況 (複数回答) (基本集計)

	H25	H23
	(対象数:565)	(対象数:467)
	回答	回答
(1) 初診、治療開始時	342 (60.5)	319 (68.3)
(2) 手術後、退院前	282 (49.9)	234 (50.1)
(3) 具合が悪くなった時	193 (34.2)	164 (35.1)
(4) その他	28 (5.0)	13 (2.8)
無回答	35 (6.2)	16 (3.4)

注：()内は、相談したことのある者(対象数)に対する割合(%)である。

図21 医師に対して行った質問や相談の時期の組み合わせ (基本集計)



(3) 医師に対して行った質問や相談の内容の状況（複数回答）（問13）

医師に対して質問や相談を行った内容は「治療の方法や治療期間に関するもの」が最も多く74.3%となっている。（表8）

表8 医師に対して行った質問や相談の内容の状況（複数回答）（基本集計）

	H25 (対象数:565)	H23 (対象数:467)
	回答	回答
(1) 病名、病状に関するもの	390 (69.0)	323 (69.2)
(2) 治療の方法や治療期間に関するもの	420 (74.3)	354 (75.8)
(3) 病気についての今後の見通しについて	360 (63.7)	299 (64.0)
(4) 治療の効果や副作用について	381 (67.4)	325 (69.6)
(5) 各種検査の目的や検査後の結果について	244 (43.2)	211 (45.2)
(6) 転院や退院時の他院への紹介に関する事	61 (10.8)	62 (13.3)
(7) セカンドオピニオンに関する事	46 (8.1)	23 (4.9)
(8) 精神心理的な苦痛に対する心のケアを含む緩和ケアに関する事	43 (7.6)	32 (6.9)
(9) その他	89 (15.8)	59 (12.6)
無回答	20 (3.5)	10 (2.1)

注：（）内は、相談したことのある者（対象数）に対する割合(%)である。

(4) 質問や相談を行った時の医師の対応への感想の状況（問14）

医師に質問や相談を行った時の対応について、各問に「はい」と回答した患者は、「質問や相談はしやすかったか」の問には85.0%、「時間をかけて答えてくれたか」の問には78.1%、「回答は適切なものだったか」の問には81.1%となっていた。（表9）

表9 質問や相談を行った時の医師の対応への感想の状況（基本集計）

	H25年度（回答数：565）				H23年度（回答数：467）		
	はい	いいえ	わからない	無回答	はい	いいえ	無回答
(1) 質問や相談はしやすかったですか？	480 (85.0)	53 (9.4)	2 (0.4)	30 (5.3)	410 (87.8)	29 (6.2)	28 (6.0)
(2) 質問や相談には時間をかけて答えてくれましたか？	441 (78.1)	66 (11.7)	8 (1.4)	50 (8.8)	360 (77.1)	56 (12.0)	51 (10.9)
(3) 質問や相談への回答は適切なものでしたか？	458 (81.1)	53 (9.4)	10 (1.8)	44 (7.8)	378 (80.9)	33 (7.1)	56 (12.0)

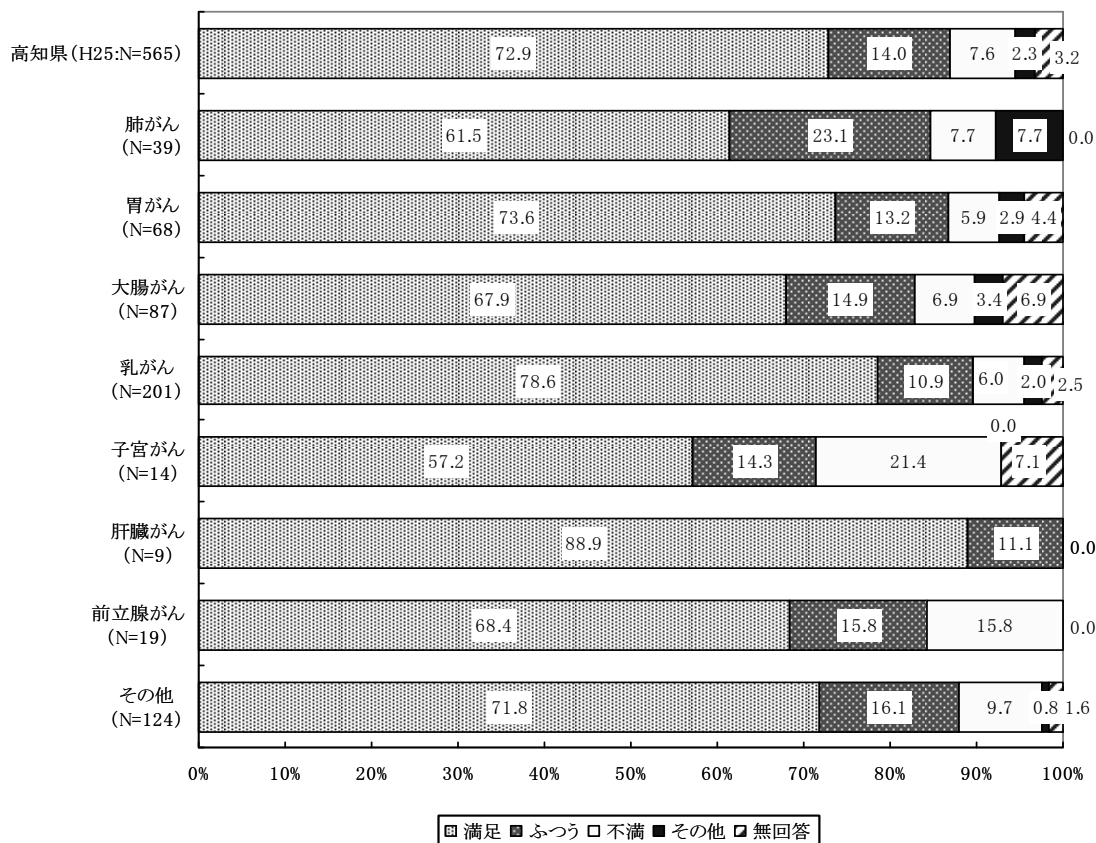
注：（）内は、回答数に対する割合(%)である。

(5) 質問や相談を行った時の医師の対応への満足度 (問15)

質問や相談を行った時の医師の対応について「満足」していると回答した患者は72.9%、「不満」と回答した患者は7.6%となっている。

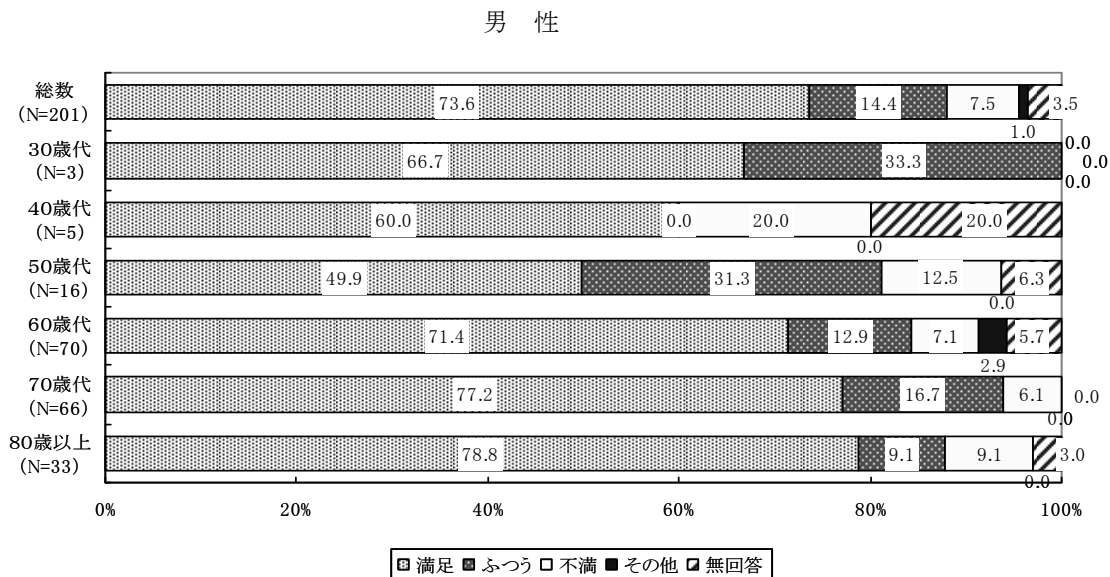
疾病別にみると、「満足」していると回答した患者は「肝臓がん」が最も多く88.9%で、次いで「乳がん」の78.6%となっており、「子宮がん」が57.2%で最も少なくなっている。(図22)

図22 疾病別の質問や相談を行った時の医師の対応への満足度の状況 (基本集計)

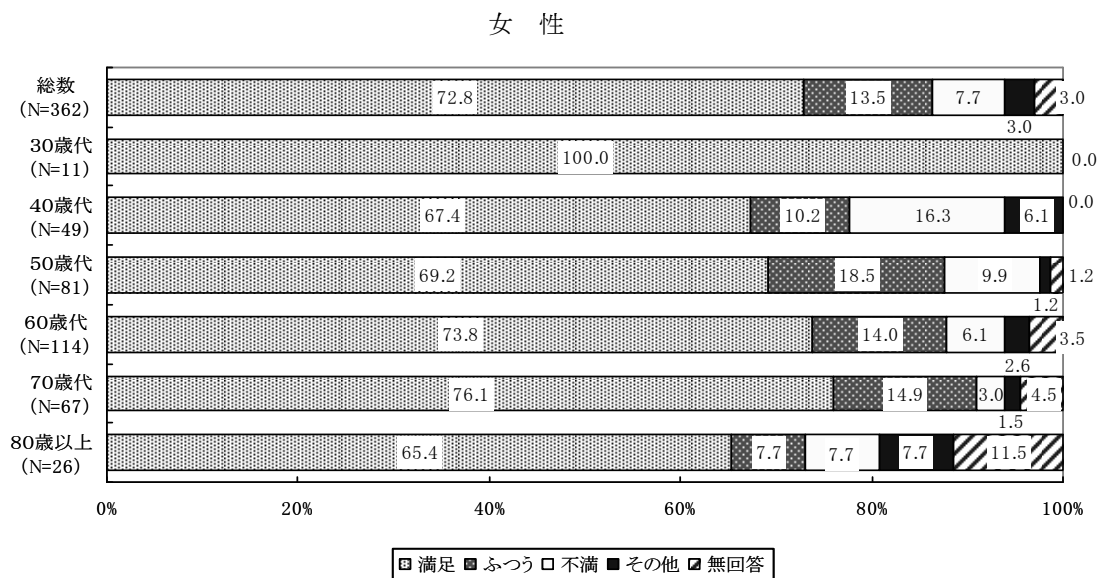


性・年齢別にみると、「満足」していると回答した患者は、男性73.6%、女性72.8%となっている。（図23）

図23 性・年齢別の質問や相談を行った時の医師の対応への満足度の状況（基本集計）



注：総数には年齢不詳を含む。また30歳未満の回答数は0であった。



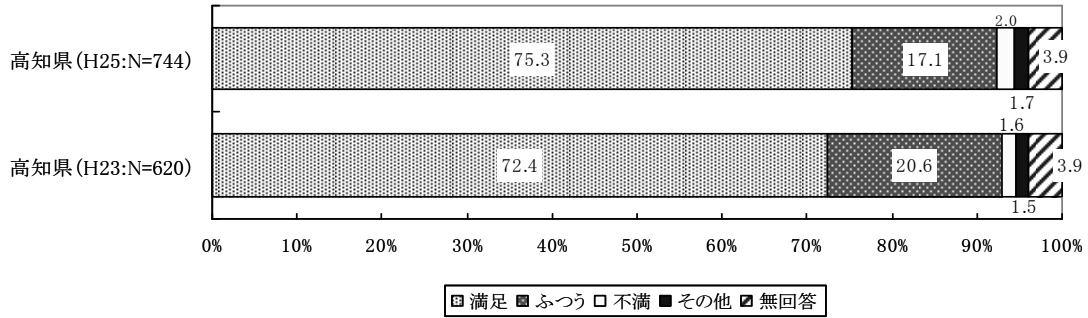
注：総数には年齢不詳を含む。また30歳未満の回答数は0であった。

4 今日診察を受けた病院に対する満足度 (問16関係)

ア 受けた診療・治療内容の満足度

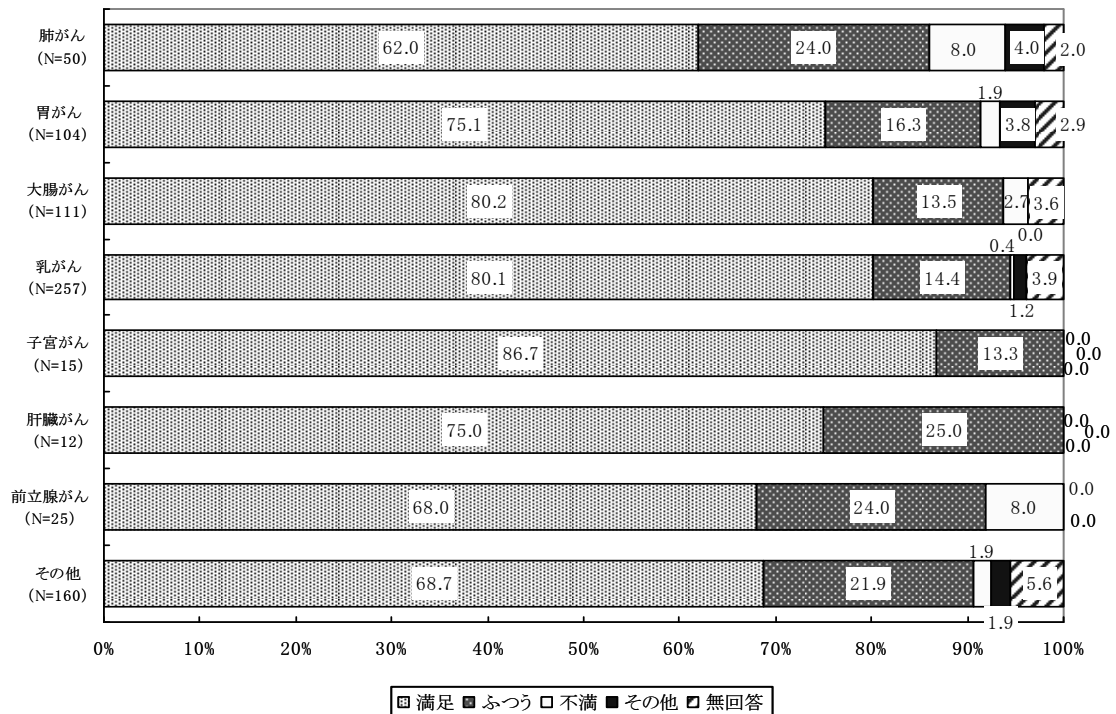
今日診察を受けた病院での診療・治療内容について「満足」していると回答した患者は75.3%、「不満」と回答した患者は2.0%となっている。(図24)

図24 今日診察を受けた病院での診療・治療内容に対する満足度の状況 (基本集計)



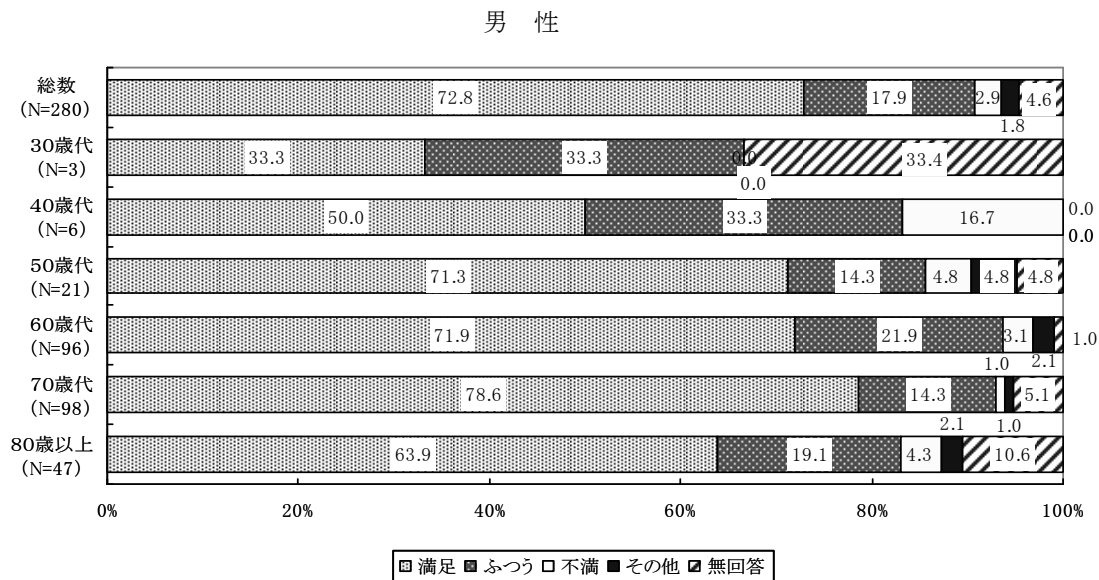
疾病別にみると、「満足」していると回答した患者は「子宮がん」が最も多く86.7%で、次いで「大腸がん」の80.2%となっており、「肺がん」が62.0%で最も少なくなっている。(図25)

図25 疾病別の今日診察を受けた病院での診療・治療内容に対する満足度の状況 (基本集計)

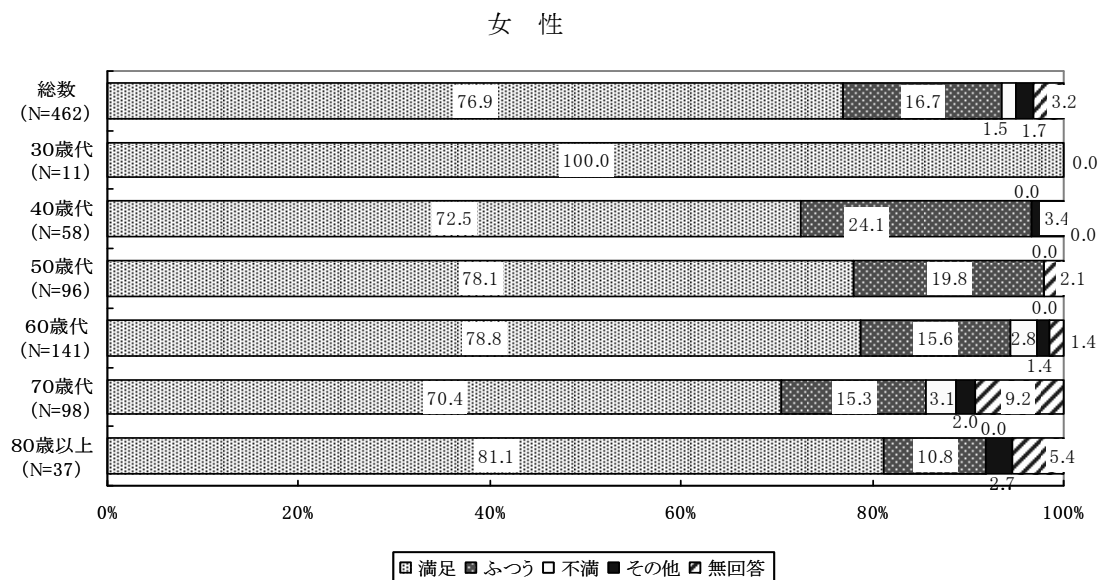


性・年齢別にみると、「満足」していると回答した患者は、男性72.8%、女性76.9%となっており、女性の方が高くなっている。（図26）

図26 性・年齢別の今日診察を受けた病院での診療・治療内容に対する満足度の状況（基本集計）



注：総数には年齢不詳を含む。また30歳未満の回答数は0であった。



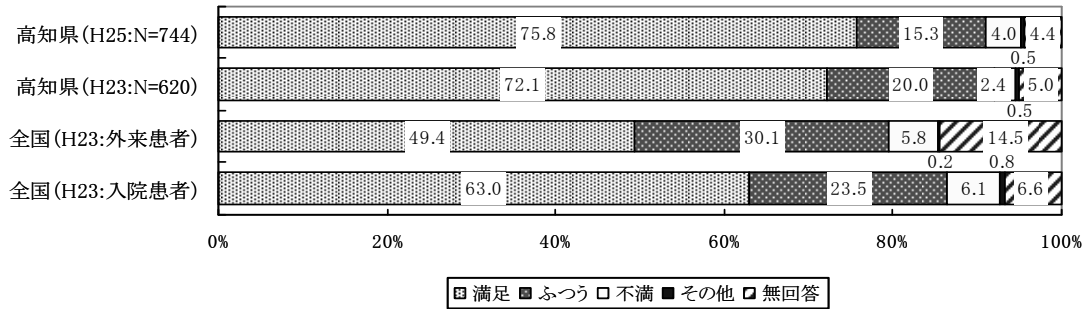
注：総数には年齢不詳を含む。また30歳未満の回答数は0であった。

イ 医師との対話に対する満足度

今日診察を受けた病院での医師との対話について「満足」していると回答した患者は75.8%、「不満」と回答した患者は4.0%となっている。

厚生労働省が行った平成23年受療行動調査での全外来患者の満足度（49.4%）と比較してみると、26.4ポイント、全入院患者の満足度（63.0%）と比較すると12.8ポイント上回っている。（図27）

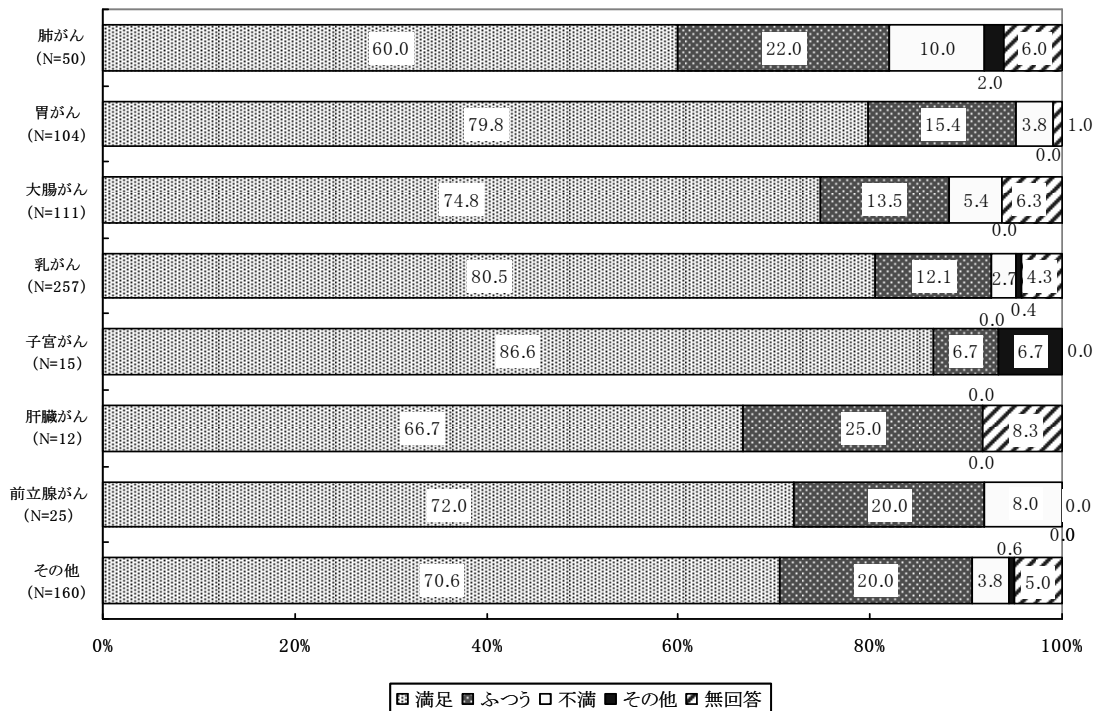
図27 今日診察を受けた病院での医師との対話に対する満足度の状況（基本集計）



※全国値は平成23年受療行動調査結果での、全外来入院患者の「医師との対話の満足度」の値

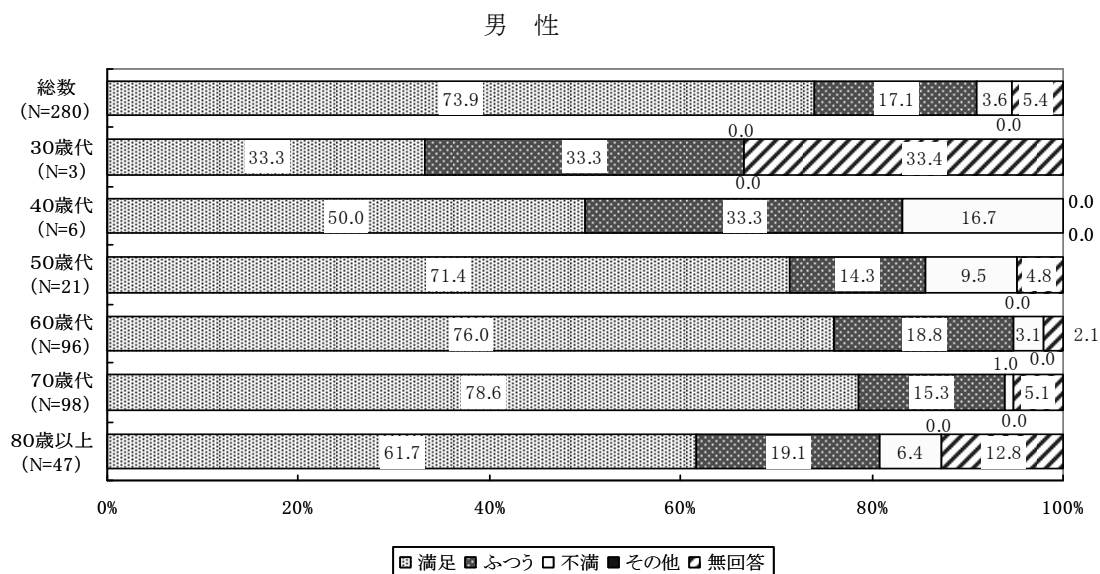
疾病別にみると、「満足」していると回答した患者は「子宮がん」が最も多く86.6%で、次いで「乳がん」の80.5%となっており、「肺がん」が60.0%で最も少なくなっている。（図28）

図28 疾病別の今日診察を受けた病院での医師との対話に対する満足度の状況（基本集計）

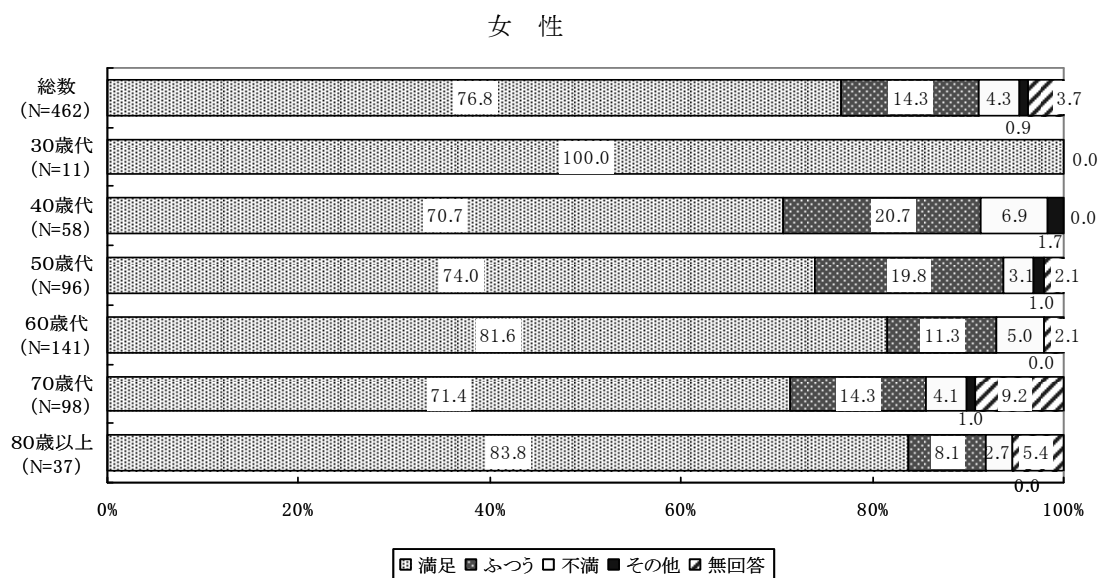


性・年齢別にみると、「満足」していると回答した患者は、男性73.9%、女性76.8%となっており、女性の方が高くなっている。（図29）

図29 性・年齢別の今日診察を受けた病院での医師との対話に対する満足度の状況（基本集計）



注：総数には年齢不詳を含む。また30歳未満の回答数は0であった。

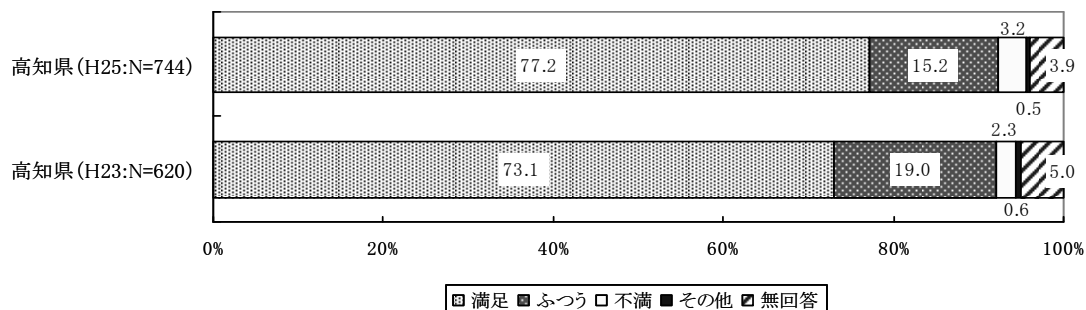


注：総数には年齢不詳を含む。また30歳未満の回答数は0であった。

ウ 病院に対する全体的な満足度

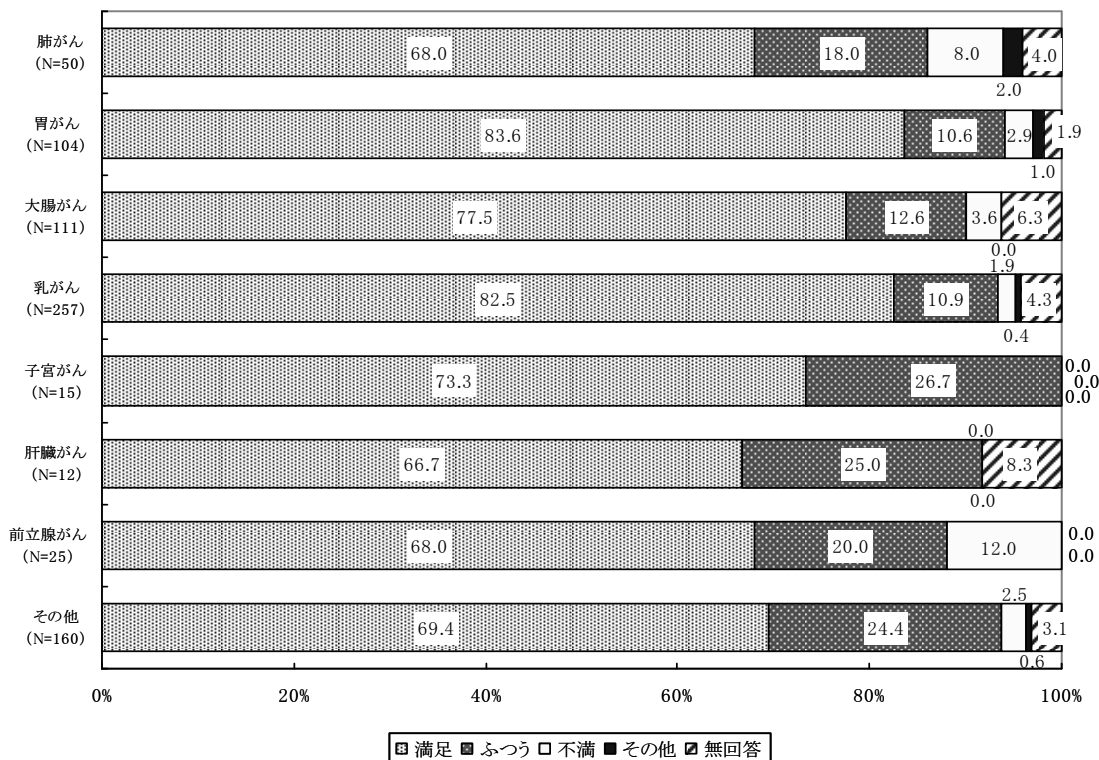
今日診察を受けた病院を全体として「満足」していると回答した患者は77.2%、「不満」と回答した患者は3.2%となっている。(図30)

図30 今日診察を受けた病院に対する全体的な満足度の状況 (基本集計)



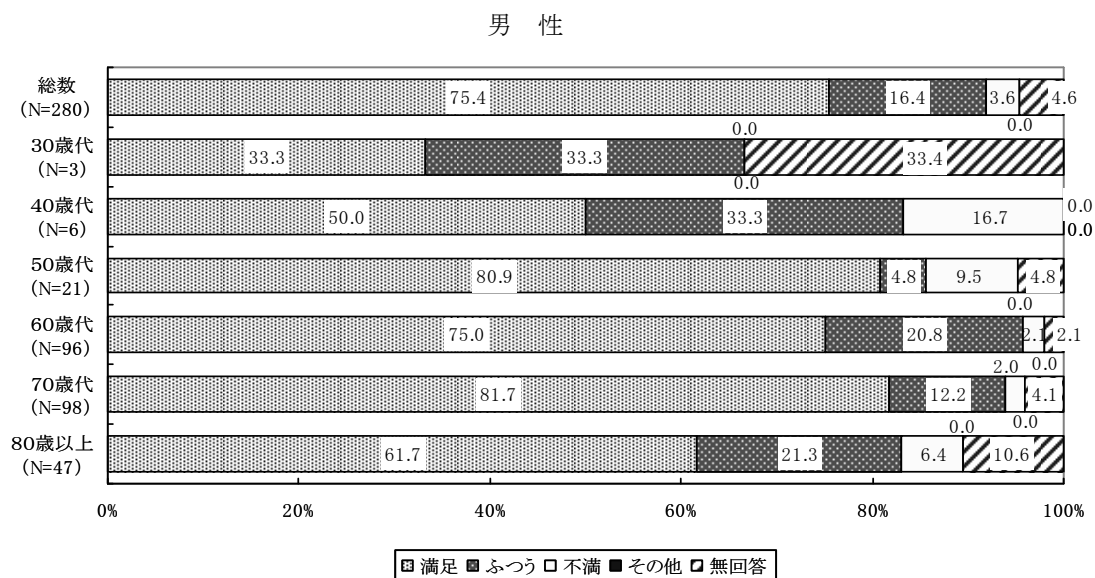
疾病別にみると、「満足」していると回答した患者は「胃がん」が最も多く83.6%で、次いで「乳がん」の82.5%となっており、「肝臓がん」が66.7%で最も少なくなっている。(図31)

図31 疾病別の今日診察を受けた病院に対する全体的な満足度の状況 (基本集計)

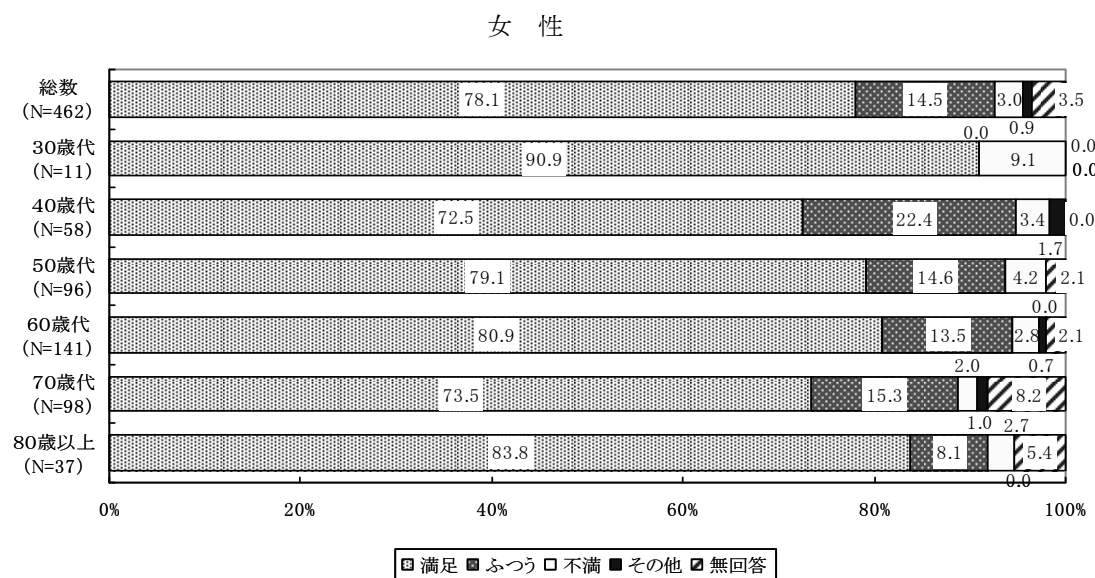


性・年齢別にみると、「満足」していると回答した患者は、男性75.4%、女性78.1%となっており、女性の方が高くなっている。（図32）

図32 性・年齢別の今日診察を受けた病院に対する全体的な満足度の状況（基本集計）



注：総数には年齢不詳を含む。また30歳未満の回答数は0であった。



注：総数には年齢不詳を含む。また30歳未満の回答数は0であった。

5 自由記載等について

(1) 初めて治療を開始した時に不満を感じた方の自由記載内容

受けた診療・治療内容に対する満足度を聞いた問6-1に「非常に不満」または「やや不満」と回答した自由記載内容。

- ・ 検査後の医師の説明の仕方が冷たい。(事務的な言い方)

医師の説明に対する満足度を聞いた問6-2に「非常に不満」または「やや不満」と回答した自由記載内容。

- ・ 患者とのコミュニケーション不足。
- ・ 電子カルテばかり見て、目を見て話してくれない。
- ・ 検査結果に対する診断・説明不足。
- ・ 医師の言葉の使い方や言い回しのマナー。
- ・ がん患者に対して関係ある医師が集まり、最善の治療を検討・実施してほしい。
- ・ 精神的・心理的な心のケアについて相談できる医師がいない。

治療を開始した病院に対する全体的な満足度を聞いた問6-3に「非常に不満」または「やや不満」と回答した自由記載内容。

- ・ 技術レベルの高い医師の育成や、がん特効薬の発見を希望したい。
- ・ 患者のプライバシーがない。
- ・ 精神的、心理的な心のケアについて相談できる医師がいない。
- ・ がん専門の病院やセンターをつくり、他の県の先進医療・薬剤などの情報を連携し、多くの中から治療の選択できるシステムがあればと思う。
- ・ 信頼のできる良い技術を持った医師が、どの科も不足している。

(2) 入院治療時に不満を感じた方の自由記載内容

受けた診療・治療内容に対する満足度を聞いた問10-1に「非常に不満」または「やや不満」と回答した自由記載内容。

- ・ 他県に比べ医師のレベルが低い。

医師の説明に対する満足度を聞いた問10-2に「非常に不満」または「やや不満」と回答した自由記載内容。

- ・ 入院先の医療に携わる人より心ない言葉を聞いた。

入院治療を受けた病院に対する全体的な満足度を聞いた問10-3に「非常に不満」または「やや不満」と回答した自由記載内容。

- ・ 大部屋のベッド間隔は非常に狭く落ち着かない。(手術前夜、隣接の音が耳につき眠れなくずいぶん苦しい思いをした。)

(3) 医師への質問や相談時に不満を感じた方の自由記載内容

患者から医師に質問や相談をした時の医師の対応に対する満足度を聞いた問15に「非常に不満」または「やや不満」と回答した自由記載内容。

- ・ 患者さんが多いため先生とゆっくり話すという雰囲気がない。
- ・ 患者を心配してくれるような医師がいない。
- ・ 医者への対応が冷たい。
- ・ 患者とのコミュニケーションをとってほしい。

(4) 現在受けているがん診療に不満を感じた方の自由記載内容

受けた診療・治療内容に対する満足度を聞いた問16-1に「非常に不満」または「やや不満」と回答した自由記載内容。

- ・ 診察までの待ち時間が長く余計に疲れる。

医師の説明に対する満足度を聞いた問16-2に「非常に不満」または「やや不満」と回答した自由記載内容。

- ・ 今後の治療法を明確にしてもらいたい。
- ・ 精神的、心理的、心のケアのできる医師がいない。

現在治療を行っている病院に対する全体的な満足度を聞いた問16-3に「非常に不満」または「やや不満」と回答した自由記載内容。

- ・ プライバシーが守られていない環境が多々あり、プライベートの事柄については細心の注意を払ってほしい。
- ・ 医師の治療方針が看護師全員に行き届くような体制を考えてほしい。
- ・ 県を代表する病院なのに、信頼のできるよい技術を持った医師が、どの科も不足している。
- ・ 患者の立場になって考えてくれるような先生がいてほしい。
- ・ 精神的、心理的な心のケアについて相談できる医師がいない。

(5) その他の自由記載内容

がん予防及び早期発見	
カテゴリー	記載内容
がん予防に関すること	<ul style="list-style-type: none"> ・ 予防が大切。 ・ 食生活に気を付けること、できるだけストレスをためないようにすること。 ・ 大病して初めて気づく健康の大切さ。がんにならないための日々の暮らし方、ならないために何が必要か、研究をしてほしい。
がん検診の重要性に関すること	<ul style="list-style-type: none"> ・ 何と言っても早期発見、早期治療が第一だと実感しています。 ・ 定期健診の重要性を、もっと訴えて、たくさんの方が気軽に受けられる制度やイメージづくりが大事だと思いました。 ・ 今やがんは2人に1人の割合でかかっていると言われてるので、検診、検診、検診ですね。たくさんの方が検診を受け、むしろ検診は義務づけるべきだと思います。本当の意味で“健康対策課”さんにごんばってもらいたいです。 ・ 介護関係の仕事をしていますが、介護者の多くは日があわないなどで検診をうけない人、うけていない人が多いです。自分のことは二の次なので受けることができるように考えてほしいです。 ・ がん検診は、できるだけ多くの人に受けてもらいたいです。発見が早いほど生存率も上がりますし、体への負担も少なくてすむ。受診率が上がるよう、よりいっその努力をお願いします。 ・ がんの予防、早期発見の啓発に一応努力がいると思う。 ・ 自ら月1回通院し、年1回健康診断し、病気を早期発見してほしい事。 ・ 検診に行くように言われていたのに、遅くなり少し手おくれになりました。残念です。 ・ 気がつけば進行をしていた。やはり定期的検診（詳しいほどいいと思う）人間ドックに入るのも良いと思う。命にかかわるのだから、一度は受けておいた方が良いと思う。 ・ がんは自分が深く意識して検診を受けなくてはとつくづく感じました。もっと皆が検診をすることを大切に考えて欲しいので機会あるときは訴えています。早期発見が生命を守っている。 ・ 行政の検診で明らかになりビックリしましたが、早期発見で有りがたかったです。 ・ がんは早く見つける程、治療も体に負担がかからず生命も保たれますので、とにかく年に1回の検診は必ず受けるようおすすめします。 ・ 初めてのマンモグラフィーで乳がんが見つかり、早期発見で本当に良かったです。自分の経験を元に友達やいづれ我が子にも勧めていきたいと思えます。 ・ 初めて受けた市による検診で乳ガンの早期発見が出来ましたことは良かったと思えます。検診の大切さをつくづく感じております。これからも治療に専念したいと存じます。 ・ 二人に一人ががんになる時代に私達はいます。がんが誰にでも起こる出来事です。何より自分に検診を受けることが義務との自覚が大切だと思います。 ・ 対策はやはり検診に尽きると思えます。 ・ 検診を受ける事です。

<p>がん検診の重要性に関すること（続き）</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・自分の経験をふまえ、いかに早期発見、早期治療が大切かを、趣味グループの中で話しました。自覚症状がある程度強くないと病院に行きにくいようです。「がん」と言われるのが怖い。自分だけは「がん」にはならない！との盲信も感じました。 ・早期発見、早期治療だけ。がんはこわくない。 ・自分が体験した「自覚症状は全くない、出た時は手遅れになる事もあり得る。だから検診を…」と機会ある都度伝えていきます。 ・県ががん対策として検診を推進してくれていますが、有難い事と必ず検診するよう心がけています。
<p>がん検診の体制・項目 充実に関すること</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・合併になる前の市では乳がんと子宮がんを毎年、町で行っていましたが、今は2年に一度になりました。毎年検診があればいいなと思います。 ・がん検診の種類をもっと増やしてほしいと思います。人間ドックや行政が行っているがん検診をきちんと受けていても、それ以外のがんならわからないと思います。それが予算的に無理なら、何年かに一度でもCT検診等があれば、全身的なことがわかると思います。 ・検診がより受け易くなる制度はできてきましたが仕事をしていると多忙すぎて、検診の機会を逃してしまうことがあります。私も実際そうでした。もちろん制度の充実はベースとして必要です。職場もそれなりに“病氣”に対して啓発されているところです。にもかかわらず育児・家事・仕事をしていると結果的に検診の機会を逃したりしました。どうしても受ける時間がとれず、時期をずらしている間にやっとの思いで受診したところ、がんが転移もいくつかあり悪い状況でした。自分で仕事を休んででも迷惑かけても検診を受けるべきだ、自己責任だと簡単にかたづけられない問題が横たわっています。 ・がん検診は市町村実施の分ですと受けてきました。子宮がん・乳がんは2年に1回になり、ちょうどその時、乳がんになりました。自分で医療機関を受診すれば良かったのですが、やはり毎年検診を受けるべきだと思います。 ・乳がん検診はマンモだけでなくエコーまでセットにするべき！そしたらもっと早く分かって転移などなく初期だったかもしれない。 ・早期発見のために職場健診や市町村の検診の充実をお願いしたい。（公的負担等） ・検診制度の更なる充実、受診可能年齢の引き下げ、回数を増やすように願います。 ・胃の調子が悪いと思ったら、早めにカメラをしてもらうことです。 ・隔年ごとにバリウムと胃カメラ検査を50代になれば実施したらどうだろうか？検診を行いながら、見つけてもらえなかった者が、命をかけて望むことです。
<p>がん教育に関すること</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・子供の頃から学校で病気になりにくい体を作る食事や生活の仕方など考えさせるように、授業を保健の時間や家庭科の時間などで教育してくれたらよいと思います。

医療水準の向上

医療機関の整備・機能
充実に関すること

- ・主たる都市に設備の整った病院が多々あるのは仕方がないが、国公立病院であるのに、地方の方が整備されていない？（勉強不足かもしれないが）というのは、税金、国保介護保険等平等に払っているのに、不公平な気がする。生まれ育った場所によって治療を制限せざるをえないのは・・・。
- ・病院が近くにほしいです（東部）。
- ・がんでの不安は転移が一番怖いので定期的に手厚い検査（ペットCT等）をお願いします。
- ・がん患者は多いのに〇〇〇病院に腫瘍科の医師がいないのは、とっても残念（専門医）です。
- ・化学療法室内はプライバシーが守られていない。患者と医療者の会話がまる聞こえで、病気のことを他人に知られたくない自分としては苦痛である。
- ・〇〇〇病院で肺がんが発見されて〇〇〇病院で検査、治療して、今は〇〇〇病院まで定期的に血液を送って治療をしており高知まで行くと遠いので大変助かっている。
- ・この病院（他も）は長くても3ヶ月で出され、後は外来でやっています。まだ点滴もあります。入院してゆっくりしたいです。外来だと終わってすぐ出なくてはならないので。
- ・個室が少ない。
- ・今回は早期胃がんという事でESDによる手術を受けることができました。手術時間、入院期間共に短く、退院後も普通の生活を送る事ができ医療の進歩に驚きました。地方に居ても安心して高度医療が受けられる様、医師の研鑽と共に高度医療機器の導入に積極的に取り組んでいただきたく要望します。
- ・県内にも部位、がんにかかわらず、がん専門の病院なりセンターをつくり、他の県の先進医療、薬剤などの情報を連携しもっともっと多くの中から治療の選択できるくらいお医者さん側から提供して頂くシステムがあればと思います。
- ・予約通院での待ち時間が長すぎる。

医療に携わる人材に関する
こと（待遇・スキル）

- ・私は自覚症状があり2年間検診をその時受診していた病院で言われる通り受診しました。が、Drの力不足で適切な検査を受けられず、不信感が残りました。Drのレベルをもっと上げてほしい。
- ・医師のてきぱきとした態度で患者はものすごく心強く思います。これからも患者の立場に立って血の通った診療を続けていってほしいと思います。それと夜中もなにも関係なく頑張っている看護師さんにはほんとうに勇気づけられました。
- ・検診でひっかかりましたが、医者の診断が甘かった事や、手術が早くできなかった理由等で、進んだ状態でがんが発見されたことはくやまれます。たくさんベテランの医者の育成や、がんの特効薬の発見を強く希望しています。
- ・がん対策が色々良くなって来てるので、1日も早く最新医療を使用して、がんの心配が無いようになりたいと思います。神の手と言われるような先生が多くなってもらいたいと思う。病人を心配して考えてくれるような先生もほしい。
- ・初めて治療を開始した医療機関より現在の主治医の先生の初診の問診の言葉に救われました。心から信頼できる先生だと心から感謝し、これからも先生（主治医）をお願いしたいと思っています。患者は先生の一言で随分救われます。希望がもてます。
- ・すばらしいと思う。増々進んでもらって多くの人の体と心を助けてもらいたい。

医療に携わる人材に関すること（接遇・スキル）
（続き）

- ・前立腺がんを6年前に発症し、その後の血液検査で異常はなしと告げられ、知識のない私共は、血液だから体全体のがんマーカーがマイナスとばかり思っていました。乳がんの発症したのは2年半前でわかった時は2cm以上で、リンパにも転移し、リンパも切除しました。前立腺がん手術後の血液検査が前立腺がんのみの結果ということを知っていたら、転移がないか疑いを持って検査（ペット等）を受けていたのにと残念に思います。私共のように無知な人の為、前立腺の検査（一）は、前立腺のみと説明していただきたいと思います。
- ・私の場合は今のところ再発がなく、医師や病院には大変感謝しています。
- ・病状や予後など心配している事を主治医に話せる関係が大切だと思う。主治医は、忙しいだろうが質問に的確に答えてほしい。やはり主治医との信頼関係が1番大切だと思う。
- ・通院時（定期）の担当医師が変わり、2人入れ替わったため。2人目の時には検査等で異常を表す数値が出てのに見落とし、説明等がなかった。その結果再発のオペ等は主治医に戻ったが、信頼の出来るよい技術を持った医師がどの科も不足していることは大問題！ドラマの世界のような内部争いがまだまだあるようで、良い医師たちが他府県に流出している様子。間近に迫ってる震災で、企業の流出を食い止めようと力を入れておられる県政…。企業も大事ですが「命」が大事ではないでしょうか。他府県から評判を聞きつけて受診に来る、そのような医師の育成にも県政の協力が必要だと思います！
- ・主治医を信頼してお任せしている。信頼関係が重要であると思う。
- ・食事関係の細やかな対応が非常に不十分。料理の仕方が患者に対して対応ができていない。
- ・治療も大切ですが、一番はお医者さんとの信頼関係だと思います。家族の話をしたり、どんな話しをしても耳を傾けて頂ける。声を掛けてくださる。精神的に救われます。
- ・医師や看護師に大変良くしていただきました。
- ・ただでさえ“ガン”と聞かされた時は、頭の中が真っ白になり、あまりよく覚えていない程のショックがあります。もう少し医師の言葉使い言いまわしが前向きなプラスな言い方をしてくださると少し気持ちも明るくなれそうです。私は初めて告知された時、家族と一緒に私が泣くとみんなが困ると思い泣きませんでした。病室に帰る時、婦長さんがだまって手をにぎって下さいました。その時初めて涙が出ました。そういう心の支えもすごく必要だと思います。その婦長さんにはすごく感謝しています。
- ・患者本位は建前のようだ。
- ・検査の結果とかを聞かないと言ってくれない時がある。全体的な感じで言われると何に気を付ければいいのかわかりにくいと思う。
- ・なかなかお医者さんに質問しづらいけれど（お忙しいので仕方がないですね）今の先生は、ゆっくり時間を取って下さるので嬉しいです。お医者様は、沢山の患者さんとその命を預かっていてその大変さはよくわかります。しかし、お医者様にとっては、何十人、何百人のうちの1人の患者でも患者にとっては、たった1人のお医者様ですから…。
- ・手術が出来なくて、外来治療中、血液検査の結果を手元のパソコンに入力するが、患者の体を診る事が無い。少し、脈を取ったり、血圧を測るとかして、もっと安心感が欲しいと思う。

医療に携わる人材に関すること（接遇・スキル）
（続き）

- ・「がんの手術から退院までは非常によかった」と思う。がんの転移のことに対する相談については、「手術は成功し転移も今のところはない。」と言いながら、実際は転移が認められた。それはCTの画像にもはっきり認められている。それから抗がん剤治療を受けた最初のころは、パソコンにごく小さく写っている画像をこちらが何か理解しないうちに移し、どれががんかわからなかったので「がんをアップで写してくれんとわからん。」と言うとそれからはアップして説明してくれた。また医師不足で「1人の患者に20分以内でやらんと処理できん。」と言われたときはこれが現実かと悲しかった。
- ・今の先生方はパソコンばかり見て話します。もう少し患者の気持ちになって、顔を見て、先生方も心の目を向けていただきたい。
- ・パソコンには大事なデータが入っているのはわかっていますが、問診の時にも患者のほうに目も向けない経過報告のような診察ではなく、メンタル面のコミュニケーションが取れないものでしょうか？※医師の顔を正面から見たことがないです。対応もマニュアル通りの答え方で次への不安な質問も控えてしまいます。
- ・治療方針とその対応は極めて専門的なものですから、患者の側から主治医の判断に異論を述べることは難しいと思います。要は医師に対する信頼度の問題だと思います。自分は主治医を信頼しています。
- ・がん治療に対していろいろな治療方法がある事を説明してほしい。
- ・入院先で医療に携わる人からあまりにも心ない言葉をきくこともありました。本当に啓発されているのか、単に検診を受ける意識を高めるだけでなく、がんについては長寿社会が付き合っていく大きな問題として国民的に啓発されるべきことと思います。
- ・カーテン1枚で隔てられた中で人には聞かれない症状や今後の治療法など医師によって大きな声で説明される。当然自分が待合室にいる時もカーテンの向こうから患者のプライバシーが丸聞こえである。また、会計も隣接しておりマイクでフルネームで名前を何度も呼んでいる。医師の言葉がけひとつでひとすじの希望を持てるような状況の中で、なぜ血液検査で数値が下がって喜んでる時に、「こんなものは一概には言えない」などの言葉を投げつけるのでしょうか。どうして一緒に頑張っていきたいような声が聞けないのでしょうか？毎回それを感じながら抗がん剤治療に立ち向かってます。
- ・主治医の話でとても落ち着きました。
- ・先生や看護師さんによくしていただきました。とても、ありがたく思っています。
- ・先生のめぐり合いにも心から感謝です。心のケア、何度涙し、先生の言葉のお力をお借りしたかわかりません。我が事のように喜びを共にして頂き、先生のお心に嬉しく思いました。
- ・治療中、再発・転移防止を第一に配慮しつつ、QOLを良好に維持し、患者の心身のケアに注力し、コミュニケーションを一層良好に保つように。看護師はカンファレンスにより患者個人の情報を共有し、技能向上に努め、患者の苦痛を軽減し、患者とのコミュニケーションを一層良好に保つように患者対応に努めてほしい。

医療に携わる人材に関すること（接遇・スキル）
（続き）

- ・医師による告知について。大腸の内視鏡検査の直後、“がんです。悪性です。レベル5です。”と事務的に言われ、あ然としました。お仕事でしょうが、もう少し患者側に立った物の言い方をお願いしたいと思いました。
- ・何しろ初めての事で不安もあったが、先生方、スタッフの方々に感謝しています。
- ・やはり経験の少ない先生は不安が大きい。先生が一生懸命なのは分かるが、何しろ先生の名前（知名度）で信用することが大きい。
- ・専門用語ではなく、分かりやすい言葉で話してもらいたい。告知は、最初の段階では精神的に辛いものなので配慮願いたい。
具体的に詳しい説明時には、時間を取ってほしい。患者側の立場に立って接して欲しい。
- ・今は病状や余命等も本人に知らせるとお聞きしていたので、人によって違うから・・・等と言って、なかなか教えてくられず、私達も残された時間を受け止め、いろいろ母にしてあげたい事もあるから聞いているのに何で教えてくれないのか、とても気分を害しました。
- ・医師ともっと時間を掛けて相談したい。他の患者も多く、迷惑を掛けてはいけないと思い、遠慮してしまう…。その代わり、看護師さん（がん専門）にいろいろ相談したり、話を聞いてくれたので安心しました。医師も、看護師のことを信頼していました。
- ・「患者を不安にさせない！」。すごく大切なことだと思います。私のかかりつけの病院はまさしくそんな病院です。がん、手術、治療、費用、全てに関して細かな説明を受け、本当に感謝しています。「心のケア」って、がん患者にとっては大切です。
- ・主治医と時間を掛けて、がんについて等、質問、相談等の希望はありましたが、患者の多さを知っているので質問等はメモにしていました。また、婦長の説明やアドバイスがとても心のケアになりました。病院全体でのチームワークが良いと思います。
- ・入院中は、大変な不安で、いろいろなことを考えてしまい心がめいっても、医師に率直に相談することもできず、落ち込みました。治療する者が、される者の気持ちが即わかるものではないということを痛感しました。
- ・患者さんが多いため先生とゆっくり話すという雰囲気ではなかった。
- ・病院によって各治療方針が違うため、がん告知を受けた患者にわかりやすく治療方法の説明がほしい。
- ・今後の治療法を明確に示してもらいたい。
- ・がん患者は多少なりとも、その病気（がん）のみの苦痛はもちろんの事、心も病んでいることがあります。とにかく、医療に係る人は技術は言うに及ばず、優しい言葉がとても大切に思えます。優しさが折れそうな気持ちを救ってくれます。
- ・患者1人1人に時間をかけて対応できないのかもしれないが、医者への対応があまりにも冷たい。ただ作業の様に淡々と話を終わらされる。治療内容はもちろん重要だが、接し方の勉強をした方がいいのでは？言い方一つだと思う。患者の気持ちにたって考えてほしい。怖くて質問をできない時もある。

医療に携わる人材に関すること（接遇・スキル）
（続き）

- ・今の主治医は話しやすい方だと思うし、病気の事もよく勉強していると思いますが、何分、忙しい、こちらが気を使って話がじっくりできない。病院は患者の情報（検査結果など）を自分のもののように思っているがあれは患者のもので、根本的なところで「治してやっている」といった姿勢がどうしてもあるので、医療者は自分が病気にでもならないとわからない事が多いのかも知れない。医療者の問題を本人達に検証させるのはお笑いです。そんな事、できるはずがない。思う以上に医療の世界は腐っています。
- ・忙しいのはわかりますが、もっと丁寧に説明してほしいです。家庭・仕事などがあるのに、まったく説明してくれないので、見通しをつけることができません。また、治療の方向性は普通、一緒に考えますよね。それが一方的で「この治療しかない」「この治療をしなければ、助からない」「この治療をしないのであれば、他の病院に」など、強制的、おどしとともとれる発言があります。高知県の医療をどうかしてください。
- ・医師の治療方針が看護師全員に行き届いているとは思えなかった。医師同士は連携がとれているのは感じれたし、内には医療従事者として、すばらしい職員も大勢いるが、中には信じがたい言動の職員もいた。患者は言われるままに従わざるを得ないことも再三あった。毎日同じことの繰り返しだから処置等の違いや手抜きが解る。家族へ1時間前後もする長電話が職員から何度かかかってきた。「退院ということですか」と聞くと「そういう意味ではない」と言われたし、家族が病院へ出向いた時は、一度も直接言われたことはなかった。そのうち、患者本人に「（病院に）居ても治りはしないんだから」と看護師からの発言があり、これを機に患者の希望もあり、退院し、通院治療になった。家族の元に帰りたいが、まずは、少しでも回復をと思い頑張っていた患者の気持ちがわかってもらえず、非常に残念に思った。退院は、医師が決めることだと思っていた。医師達の行いをも揺らいで見えたりもした。入院中も入院直後とは違う症状が感じられ始め、変化を「おかしい」と訴えても即対応ではなかった。

<p>医療連携体制の整備に関すること</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・通院治療に安心できるシステムづくりが欲しい。中心になる病院と個人病院との連携を強化。 ・外科と内科のつながりをできればもっと密接にしていけると有り難いです。 ・総合病院なので、内科、外科、放射線科、腫瘍内科、緩和ケア等一同に集まって、患者の今まで、今後治療を話し合っしてほしい。 ・私は喉頭がんと食道がんで〇〇〇病院に入院したりしましたが、耳鼻科の先生と外科の先生の話が違い困りました。最終的には外科の先生が放射線治療では20%、手術で80%くらい治る可能性があると言われ手術を決めていました。〇〇〇病院にセカンドオピニオンで行ったところ、放射線治療で6～7割治ると言われそのまま入院させていただき現在6年過ぎましたが元気で過ごしています。その先生の話ですと、がん患者に対して関係ある医師が集まりどういう治療が最善かを話し合いチームを組んで2ヶ月以内で治療を終えなくてはいけない、高知は遅れているなあと言っていました。私が〇〇〇に行ったのは〇〇〇病院で抗がん剤治療を2度受けたりして3ヶ月半経っていました。“その外科医は自分が手術をしたいだけだろう、放射線治療のことを分かってないなあ”とも言っていました。高知県の医療のレベルアップをお願い致します。 ・科別の先生のコミュニケーションをもっとよくしてほしい。パソコン上での結果を見ていることが多い。患者の方が気を使わないといけないし、科ごとに、くわしく説明しないといけないのでしんどい。
<p>セカンドオピニオンに関すること</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・発見されて2年と2ヶ月になりましたが、今は内視鏡では特に変化はないといわれましたが、医師の説明ではそのうち増殖や転移があったら危険なので早く手術することをすすめられていますが、胃がんの範囲が広くて全摘となるため未だ決断できていません。担当の医師の誠実で真剣な態度と優しい心が分かるので他の病院へは行く気はありませんが、これで良いものか相談する機関を教えてください。 ・いざがんと言われると、早く手術をしてしまわないと遅くなってしまうと思ってしまう、また、セカンドオピニオンは主治医に遠慮してしまい後々つき合っていかなくはないので、なかなか患者側からは言い出せない。
<p>治療負担軽減に関すること（副作用等）</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・抗がん剤の副作用の軽減を図ってほしいです。 ・手術後、化学治療を一年受けましたが吐き気、血管痛などに悩まされました。副作用もあり大変でした。今後治療を受けられる方々のためにも少しでも副作用のない吐き気もない点滴や薬が開発されることを祈ります。 ・化学療法を在宅で受けましたが貧血がひどく、家族のサポートが少ない場合は入院しないと日常生活が大変だと思いました。在宅か入院かを自由に選びやすくすべきです。入院して治療を受けたいと言えばさせてくれたかも知れませんが、何だか言い出しにくくて申せませんでした。 ・手術の後、抗がん剤治療が辛かったです。仕事をしながらの治療は本当にやめたかったです。抗がん剤治療にかわる治療法が早く見つかるとういと思っています。 ・副作用などいろいろ出ます。きつい薬なんだと痛感しています。きつ過ぎます。

<p>治療負担軽減に関する こと（副作用等） （続き）</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・再発・転移などの度に、ネズミたたきのような治療しかない現実になり覚える。自分の（がん患者としての）全体像が見えにくい。骨転移してるけど、肺がんの治療でかなり効果はあるはず・・・、と言われても自分では効果のほどが見えなくて、痛みがひどい時などには、効果ないのではないの？と不信を持つ。 ・なるだけ体にメスを入れない手立をしてほしい。その為には早期に治療することが大事だが体に対する負担を軽減してほしい。 ・抗がん剤以外の治療法を望みます。（精神的、肉体的にすごく苦痛です。） ・手術後の薬の副作用が心配。長い期間飲み続けなければいけないのでとても不安です。 ・副作用について具体的事例に基づいた説明が欲しい。
<p>がん研究（新薬、先進治療）に関する こと</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・新しい治療法等あればいち早く取り入れる努力をして欲しい。 ・がんの種類によって国から認可された薬があると思います。枠を超えて使う場合も保険を適用して欲しい。免疫細胞療法、重粒子線、微粒子線等、〇〇〇病院でもやれるようにして下さい。先日発表された三次元画像による肺がん手術等、また各科連携して治療することもあり、先生方は一生懸命にやっておられる看護師さんたちも患者を励まし明るく世話しておられる。ぜひ、この病院を難しい病気の拠点病院にして欲しい。 ・がんワクチンの治験はもっと対応できる施設をふやしてほしい。 ・私は手術後1年6ヶ月で今の所順調に異常なく経過しておりますが、再発の不安はあります。最近がん幹細胞がみつきそれを死滅させる方法がためされているようですが早くその治療方法を確立していただきたい。 ・がんは、早期発見、治る病気ということで、研究がどんどん進んで欲しい。 ・有効な治療法、薬等が誰もが保険診療で受けれるようにしていただきたい。 ・患者は常に受け身なので医療機関を信頼するのみ。抗がん剤の進歩、開発を願っています。 ・今後iPS等先進医療のさらなる発展をのぞむ。 ・健保適要以外の薬をたとえ高額でもすすめてもらいたい。 ・療法の副作用に十分注視しつつ、最新の治療方法採用に努めてほしい。 ・がん発生原因についてはすさまじい程度研究されている。しかし、原因に対して治療については追い付いていないように思う。原因研究=治療は足並みを揃えてほしい。 ・治験が受けられたらいいのに。 ・治療で脱毛しない方法がもっとあればいいのに。以前TVで抗がん剤投与中を前後30分程頭部を冷やしたら抜けにくかったとやっているのを見ました。高い機械かもしれませんが、メンタルのためにぜひ全ての病院で取り入れて欲しい。もちろん保険適用で。 ・乳がんは転移、再発が見られ根治が難しいと言われます。新たな抗がん剤の開発を期待しています。 ・正常細胞を傷つけない薬の開発を願っている。 ・有効な抗がん剤が見つかって承認が遅すぎる。一日も早い保険適応をお願いしたい。

<p>がん研究（新薬、先進治療）に関すること （続き）</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・がんフォーラム等にお話を聞きに行って、標準治療のお話が主で新しい治療をなぜ発表して頂けないのかがん幹細胞の治療も見つかっているが、どこの病院へ行ったらそんな治療が受けられるのか。若い人等は色々と調べて遠い所からでも治療に来られているようですが、どんどん先生達も勉強して頂きたいものです。
<p>その他</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ちまたの本屋さんで最近よく見かける抗がん剤治療の怖さとか、抗がん剤はするのかなどか、そう云った記事をよく見かけます。医師からは、抗がん剤治療をすすめられ、片方、別の医師はこんな記事を書いている。これを見て、悩んでいる患者さんはたくさんいると思います。どうすればいいんですか。 ・一般の人達は、手術をする病院で最後まで治療が行われると思っているが、実際は手術と他の治療は別の病院になることを知らない。こういうことが、一般の人に分かるようにしてもらいたい。 ・がん治療の三本柱。手術・化学療法・放射線（粒子線、陽子線）、沢山の方法の中で外科が先であるというのには、少し疑問です。こと、がんに関しては、術Drの経験・知識、失礼ですけれど、腕？私達は、全てDrに委ねて参りました。でも選択肢のあるのも確かです。知らないことが多すぎます。でも、やって間違ってたと思ってもそれは間に合わないのです。私は20年前に乳がん、外科そして〇〇〇病院外科、やっとなら放射線科にて抗がん剤で固めて部分切除（手術）そして放射線、抗がん剤そしてホルモンを止める薬で全身をケアしていただきました。その時の最新治療と思っております。
<p>患者等への支援</p>	
<p>がん相談体制の整備・充実に関すること</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・がんになった働きざかりの父や母を持つ子どもたちへ病気や治療、副作用のことなどを正しく伝えてくれる医師や第三者がいてくれたら、そういう支援があってくれたらいいなあと思ったことでした。（知ることがよいか悪いかがよくわかりませんが） ・がん相談窓口相談（先進医療について）したのですが、その対応が、心の傷になり、二度と相談には行けません。行きたくありません。 ・がんに対する普及活動について、暮らし方、生活上の安全面等について、がん患者に対する指導的なものがあればよかったです。それによって腫瘍マーカも急上昇防げたのではなかったのではと悔やんで悔やんでなりません。患者へのアプローチ、少しでも元気でいられるアドバイスを。その活動の一環としては、保健師さんが折に触れ患者に接してもらいたいです。医学上でも今だに完全に治すことはできない現状でも患者の生活面をより多く実態を知ることによって、よくない面の暗示、または他の人のよい面を聞かせてもらえば入退院を繰り返している者にとっては元気づけられ、生き延びる力にもなります。今、病院と家のみの生活で心細くなっている者への対策を進めてください。 ・西部にはがん治療に関する相談員さん等がいません。がんに関する相談ができる場所があればいいと思います。 ・がん相談支援センターは、過去にがん患者であった私にとっては、心強いです。

<p>がん相談窓口の周知に関すること</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・発症から長期化治療に対しいつも不安を持ち仕事をしています。医療機関以外の相談窓口がわかりません。 ・がんについて気軽に相談できる機関を知りたい。どこへ聞けばよいのかもわからない。 ・入院中は不安はありませんでした。退院してから相談窓口がわかりませんでした。下着の選び方とか、相談出来る場所があればいいと思いました。 ・がん相談支援センターの紹介等もなく、自力で探した。〇〇〇〇病院の相談窓口も利用したが、ニーズがあわずあまりやる気を感じられなかった。 ・がんは3人に1人の時代といわれています。がんが発見されたら、どうしたら良いか相談相手を考えます。医師と相談センター+患者+家族と話し合っ治療病院の選定等出来るようにしてください。がん相談支援センターのことは全然知りませんでした。 ・今回は、たまたま知り合いががん患者会の方と知り合いで、がん患者会を紹介してくれ、最終的〇〇〇〇病院で手術する事に決めたが、それまでに、二つの病院を転々とした。結果には、非常に満足している。一般には家族以外には相談する例は少ないと思うし、実際知人でも、入院手術が決まってから話を聞くことが多い。入院、手術を決める前にどこに又は誰に相談してよいのか知らないのではないかとと思う。もっと、相談窓口の宣伝が必要かなと思う。 ・相談窓口がわかりづらい。 ・医療費控除の手続きが複雑でわかりづらい。
<p>患者同士の交流の場（サロン）の充実に関すること</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・私は県外出身で友人も少ないです。情報も少ないので、分からない事ばかりです。病院でもがん患者が集い情報交換が出来る場を作ってほしいです。 ・若年性のがん患者の患者会があればいいと思う。（病気により、結婚、出産、両親の老後のことなど、若年層ならではの悩みがあり、同じ世代や境遇の人と話してみたいと思った。） ・何を相談しても「大丈夫、大丈夫！」と言って、真剣に聞いて答えてくれない。がんに対する不安、心配をとりぬいてくれるような言葉は聞けない。また、非常に気持ちの暗くなっている時でも、患者会の相談会や行事などに参加すると気持ちが明るくなり、気分転換になる、という意見もあります。
<p>がんに関する情報提供の充実に関すること</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・新しい治療法や薬が開発されたら、テレビ、新聞、ネットなどで流してほしい。 ・がんに対する認識不足はまだまだあると思うので、いろいろな面で知識を得られるようにして欲しい。 ・信頼のおけるインターネットの乳がんサイトで調べたりした。診察だけでは不十分な時もあると思うので、それを補う情報機関一覧等を教えて下さればと思う。 ・告知した時の患者の受け止め方も様々で、一律にはできないかもしれませんが連携機関の説明や（医療相談室）、パンフレットの設置場所等の説明があれば本人の意思で選択できると思います。 ・がんについての知識がとぼしい（ほとんどない）ので、適切な意見や要望が言えない。 ・新薬の情報が病院で教えてもらえたらいいのに。 ・医学の進歩はすごいと思いますので最新の医療の情報を定期的に新聞等で知らせてほしい。

<p>がん患者の就労に関すること</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・50歳の時、主人も亡くし、二人の子供をかかえ仕事もできなくなり、それが一番心配でした。また前の職場で少しだけ働かせてもらっていますが、今後、またどのようなことになるかも知れないので、少しでも預金もしておかないと、年金だけではどうしようもないので、働かせていただけるだけは頑張っておこうと思っています。 ・がんになった時の休業補償そして治療費の心配のないような社会になってほしい。化学療法の治療の度重なる入院は企業にとっては、めいわくな事だろう。しかし本人はなりたくてなったのではない。したくて入退院をくり返しているわけでもない。本人が一番苦しいだろうから。 ・がんになった時に、安心して治療に専念できる職場、会社環境の整備、支援体制の強化。
<p>緩和ケアの推進</p>	
<p>緩和ケア実施体制の充実に関すること</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・重いがん患者さんの場合には、本人の希望があるなしにかかわらず、術後に緩和ケアチームの方が(治療のこととか困ったことがないか、薬のこととか家庭に帰ってからのこととか)入院先にでも訪問して話を聞くということもいいのではと思います。(家に帰りたくても出来ない人もいるかと思っています。) ・心のケアが大切だと思います。 ・私の場合、抗ガン剤はほとんど効かなかった。ただ抗がん剤の治療中は気分的に落ちこみがち。体調や副作用等かなりあり、やはり精神的サポートが必要と思う。 ・緩和ケアの医師は、副作用で苦しんでいる話をするとう適切に対応してくれる。緩和ケア医師には、心から感謝しています。 ・満足な緩和ケアがどこでも受けられるようにしてほしいです。田舎にはホスピスなんてありません。終末期になると退院を迫る病院もあると聞きますが…。 ・精神心理的、心のケアについて、医師がいない。 ・心のケアの充実をお願いします。 ・病院側は、もっと心のケアをして欲しい。 ・がんと告知された時の精神的な部分でのケアも重点を置いて欲しいと思います。 ・西部には緩和ケア病棟もありません。
<p>地域の医療・介護サービス体制の構築</p>	
<p>地域医療に関すること</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・65歳未満のがん患者の介護認定の見直し(介護認定項目のがん末期は、余命6ヶ月と定義されているらしいが、判断が困難で、対応が難しいと思われる。がん末期で介護認定を申請しても、厚生省の通達通り迅速に行われていないと思う。)
<p>その他</p>	
<p>経済的負担に関すること</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・内服薬のTS-1の値段が高い。カプセルと顆粒で値段が違うことを知らなかった。職場ではすぐに退職しなくて良い、とひきとめてくれたけど、今後の治療のことを考えると仕事をやめざるを得なかった。抗がん剤、検査、処置等治療にお金がかかる。予後不良で受領見込みがないのに、年金を支払いつづける義務に対して不満。 ・抗がん剤は高額で生活費が圧迫されてくる。 ・医療費が高い。 ・検査等にもお金がかかるし、手術後の治療も5年以上はかかるので経済的な負担が大きくなる。例えば、ホルモン療法で行う注射などは保険診療ができないので、負担が大きい。

経済的負担に関すること
(続き)

- ・お金の困っています。32歳で乳がんになったため、子供も小さく、家のローン等もあります。働いてはいますが、以前のようにフルでは働けず、治療費も高額なため、本当に困っています。
- ・現在、先進医療を受診していますが、県外の為、治療費だけでなく旅費もばかにならず、負担が大きいです。
- ・一番の問題点は治療費が極めて高額であること。1ヶ月に15万円は家庭の経済にとっては打撃です。がんの多発の傾向にある今日がん保険の料金ともども大きな改善を求める処です。
- ・病院代がかかるので安くしてほしいです。長く治療をしていく中でお金がかかりますので困っています。
- ・シングルマザーです。再発して働けなくなったらもう治療もあきらめるしかないと思っています。母子家庭の医療費補助がある間はいいですが、その後は、と思うと不安で今のうちに再発すればいいのにと感じてしまいます。今のうちなら子どもたちに経済的負担もかけずに死ねると思えば治療をやめてしまおうかと思うことも多々あります。
- ・がん患者のうち、化学療法中の患者は、障害者認定をしてもらいたい。透析患者のように、医療費の限度額を定めてもらいたい。毎月、高額医療限度額（8万円台）いっぱいまでの支払いがきついため。
- ・がん治療を受けるには、治療費がとても高く感じます。お金がなければ、治療を受けることができません。2人に1人ががんになるという今日、安心して治療が受けられるよう、治療費が軽減されるよう、希望します。
- ・ケア対策が高知県は不十分である。特に問題になるのは、この質問表にない経費の問題。年金生活者には高額経費は耐えられない。いずれは途中、治療の中止を考えなければいけない時がくるのでは！
- ・治療や治療期間に関する説明されるも、私の場合、治療費についての説明がなかったため、あまりの高額にびっくりしました。
- ・がんとわかってからも前向きに治療に望んでいますが、治療病院まで遠いし、治療費も心配です。
- ・術前、抗がん剤6ヶ月間受けた後、手術した。これからも抗がん剤治療が長年続くとのこと。1ヶ月の医療費がものすごく高い。毎月9万円の自己負担中。もう、お金のない人は治療を続けることができませんね。悲しいです。
- ・今飲んでる薬代が保険がきくようになってくれればいいけど。
- ・保険適用でも高額になるため、かなり負担となっている。医療保険（がん保険）で何とかしのいでいる状態です。補助金等があれば、もう少し治療も受けやすくなると思います。
- ・高額になる医療費が家計を圧迫するため、できることなら治療をやめたいと考えてしまう。ホルモン治療の助成があれば…、続けられるのだけど…。もう無理かもしれない。
- ・2人に1人はがんになると言われていますので、医療保険も大事だと思います。
- ・医療の技術向上により、適切に短期間での入院治療が可能になりましたが、負担が（金銭面、通院20km往復）大きいです。ホルモン療法は2～3年間で、高額医療費の対象にならず、この点も（再発、予防の面でも医療費の抑制になっていると感じますので）改善されることを望みます。
- ・治療にかかる費用が高額で負担が大きい。不安なく治療に専念できるようになればよい。

経済的負担に関する
こと
(続き)

- ・薬代が高額。ハーセプチンを使用する為心臓の専門医に診察を受けながら、点滴をする一年、余分な費用がかかってくる。再発、転移がこれから先あれば、もう治療を受けることはありません。
- ・手術は先生におまかせするしかないので信頼の元、受けました。その後の抗がん剤治療等の費用の高さにビックリしました。がんの人、特に乳がんになる人は多く薬も沢山あり、治る病気だから心配ないと先生方に言っていたが、ガンになって生きようと思っていたのですがこれから5年間こんなにお金がかかるとは…。仕事もしながらの治療ですが厳しいです。もう少し費用が安くないかと思えます。
- ・最近、若い子育て中の女性の乳ガンが増えてると思います。経済的に治療費の支払いが困難な女性があります。安心して治療に専念できるようなシステムを作ってあげてください。
- ・乳がん治療には非常に長い期間を要するため、経済的にも大変である。そのため、治療をやめる人もいるし、薬代などの援助が欲しい。
- ・最近テレビや週刊誌等で記事になっている（高度先進医療）を受けてみたいと思っている患者さんは、日本にも沢山の方がいると思います。治療終了までに何百万というお金がかかり、治療を行える病院も限られているようです。何とか低所得者層にも、先進医療の治療を受けられる様な保険制度が、一日も早く出来る事を願っています。
- ・薬代が高額な事がネックになる方がいるかも…。
- ・がんに罹った場合の医療費負担の軽減をお願いしたいです。働き盛りの父親ががんとすると、がん治療は多年によるため、経済的負担が家庭に強く影響を与えます。
- ・がん医療は軽い病気とは異なる。ある程度、医療費について考えて貰いたい。高齢の人のみ1割というのはおかしい。そこまで考えてくれるのが本当の医療だ。高額（保険分だけで）であきらめる人も多いと聞く。医師本人は病気になっても1割の支払だろうか。これは身近に医師がいるが、今でもそうかどうか分からないがもっと支払って（普通以上に）もいいはずだ。
- ・医療もずい分進んでいるので、早期であれば充分な手当てが受けられますが、治療費はおどろくほど高い！！医療福祉も大事ですが、民間の保険もとても大事。様々な支援がないとガン治療は成り立たないと実感しています。特にお金がないと充分な治療が受けられないかも知れないことが、収入弱者にとって大きな問題です。
- ・治療を受けていて治る見込みがなければ治療費がいるだけでこのままでと思う時もあります。副作用だとか、いろいろあります。この先医学が進歩し、がん治療も発達すればいいと思います。経済的に収入もそれなりにあれば、不安もないのですが、いつまでも心配しなければならないと思うと生きる希望、夢もない状態です。一人ですと心細く、生活が出来なくなる状態になった時のことばかり考えてしまう今日この頃です。

<p>がんに関する不安感に関すること</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・乳がんが再発して、現在は背骨がんになっていますが、今の状態で薬を飲み続けて死を見つけていくか、本当にどうしたらよいか不安です。 ・最初、余命一年くらいと言われました。それよりは家族のためにも、もっと長生きしたいと思いました。健康診断、がん検診を15年間受けていたのにわからなかったことは残念でしたが、そういうこともあるのかと自分に言い聞かせています。 ・肝臓がんは他のがんに比べて化学療法（薬）が少ないと医師からの説明があったこと。不安です。 ・病名がもう少し早く分かれば手当も早く、入院しなくても良かったと思いますが治療が遅れたため、食事ができなくなり最悪の事態になりました。呼吸もできなくなりすぐのどに穴を開けて声も出なくなり大変です。 ・職場健診を平成25年2月にしたのですが、異常なかったとのことでした。発見したのは平成25年5月（すでに2cm）でした。検診してるから大丈夫との思いが強かったため、自分自身でのチェックを疎かにしてました。反省です。 ・まだ内視鏡でのけれるがんだったので、いろいろな意味（メンタル面とか）で大丈夫でした。しかし、重いがんになった時のことを、これから考えながら生活していかなければいけないと思うし、もっといろいろ知っていかなければいけないと思います。 ・聴覚に自信がない81歳の高齢者です。いつも付き添われて診療を受けていましたので、その点では理解出来たのではないかと思います。聴覚に自信のない高齢者は悲しいことです。
<p>医療への満足に関すること</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・初期で見つかったのでも後は大丈夫です。医師に任せてます。 ・職場の健診があったから、良かった。もうすぐ20年になります。食事には今も気をつけてます。又、Drのやさしさがあって、今も安心して年数回の病院ですが行ってます。 ・すぐにあの世に行くと思っていました。長いこと皆様にお世話様になり、とても感謝しています。市の財政の苦しい中、高額医療でとても助かっています。ありがとうございます。 ・開腹大腸切除を受けましたが、かかりつけの先生の紹介で比較的早く〇〇〇病院へ入院できましたこと、本当に幸せに思っています。先生方、看護師さん、皆様のおかげで今は普通の生活を送っています。1年1回CT検査をしていただき4年が過ぎました。むつかしい患者さんも大勢いらっしゃると思います。どうか、がん患者皆様がスムーズに入院できますようお願いいたします。

<p>その他</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・がん対策は早めに。 ・あまり深刻に考えないようにしていきたいと思います。 ・今思えば、思い切って自覚症状があった時に大きな医療機関に診察してもらっていたらと反省しています。クリニックに駆け込んだ時は、即99%がんですと報告されました。 ・抗がん剤や放射線治療が有効であると言われる一方で、これからの治療は症状を悪化させるとの研究結果もあると聞きます。東洋医学、自然治療等の選択肢があるという情報を出してほしい。また、抗がん剤を使用しない治療法、超高濃度ビタミンC点滴療法、IPT強化療法等、他にも多くの有効的な治療法があることを広めてほしい。そして、保険に適用されるよう努力をしてほしい。多くの選択肢、心のケア、費用の3つをサポートするような政策をぜひお願いします。 ・がん医療が日々進むことを願います。 ・患者さんは弱い立場。皆で頑張ろう、楽しく励まし合って。 ・がんという病気の治療に対して、満足してるかどうかを聞くことがおかしいと思う。本当ががん患者のことを考えようとするなら、保険対応できるよう対策を考えて欲しい。 ・あまり神経質にならず日々の生け花指導に励んで居ます。 ・医療より治療はまったくありませんと言われてから、3ヶ月生きております。薬はまったく飲まず、酵母βグルカンのみを必死で服用しております。胃腸の薬、痛み止め、がんの症状を抑えるというオプソゼンソクの薬等、全てのものを取りやめて、食事も少しずつでき始めております。いつ息を止めてもおかしくないと言われてましたが、何とか頑張っております。
------------	---